

平成27年度  
全国学力・学習状況調査  
恵庭市の調査結果（報告）

平成28年3月  
恵庭市教育委員会



<b>1</b>	調査の概要	1
<b>2</b>	「教科に関する調査」調査結果	4
	（1）小・中学校各教科平均正答率の状況	4
	（2）教科別調査結果の詳細	6
	① 小学校国語A（主として「知識」に関する問題）	6
	② 小学校国語B（主として「活用」に関する問題）	9
	③ 小学校算数A（主として「知識」に関する問題）	12
	④ 小学校算数B（主として「活用」に関する問題）	15
	⑤ 小学校理科	18
	⑥ 中学校国語A（主として「知識」に関する問題）	21
	⑦ 中学校国語B（主として「活用」に関する問題）	24
	⑧ 中学校数学A（主として「知識」に関する問題）	27
	⑨ 中学校数学B（主として「活用」に関する問題）	30
	⑩ 中学校理科	33
	⑪ 中学校 小学6年生時点（平成24年度）からの平均正答率（全国平均との差）の変化	36
<b>3</b>	「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」調査結果	38
	（1）小学校児童質問紙調査結果の概要	38
	（2）中学校生徒質問紙調査結果の概要	40
	（3）児童・生徒質問紙及び学校質問紙調査の主な回答結果データ	42
<b>4</b>	総評	46

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

全国学力・学習状況調査は、以下①・②の取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的として実施されています。

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

### (2) 調査の対象

- ・ 小学校6年生、特別支援学校小学部6年生
  - ・ 中学校3年生、中等教育学校3年生、特別支援学校中学部3年生
- ※ いずれの学年においても、全ての児童・生徒が対象です。

### (3) 調査の方式

全国学力・学習状況調査の方式は「**悉皆（しっかい）調査**」です。

悉皆調査は「**全数調査**」などともいわれ、集まったデータ全てをもれなく分析する調査のことです。（反対に、集まったデータの一部を抜き出して分析する調査は「**標本調査**」などといわれます。）

### (4) 調査の内容

#### ① 教科に関する調査（テスト）

平成27年度は、例年対象となる国語、算数（小学6年生）又は数学（中学3年生）の2教科に加え、平成24年度以来3年ぶりに理科も対象とされ、教科ごとに「A」と「B」の2種類のテストが行われました。（※ただし、理科では1つのテストにまとめて実施されました。）

A（主として「知識」に関する問題）	B（主として「活用」に関する問題）
・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など	・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・ 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

## ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（アンケート）

児童・生徒一人ひとりを対象とした調査と、各小・中学校を対象とした調査の2種類が行われました。

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

### （5）調査実施日

平成27年4月21日（火）

### （6）調査を受けた児童・生徒数

単位 (人)	小学6年生					中学3年生				
	国語		算数		理科	国語		数学		理科
	A	B	A	B		A	B	A	B	
恵庭	663	663	663	662	662	672	672	671	672	672
全道	42,068	42,050	42,065	42,041	42,049	40,966	40,962	40,965	40,942	40,952
全国	1,074,670	1,074,500	1,074,707	1,074,467	1,074,194	1,056,612	1,056,743	1,056,921	1,056,741	1,056,754

※「全道」の児童・生徒数は公立学校分のみ。「全国」の児童・生徒数は公立・国立・私立学校の計。

### （7）調査の解釈にあたって留意いただきたいこと

本調査では、児童・生徒の学力全体を明らかにすることはできません。調査した教科は3教科のみであり、設問の内容も学習内容全てを網羅しているとは限りません。

したがって、調査の結果から分かるのは、児童・生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分や、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに十分ご留意ください。

### （8）調査結果の掲載方法

「教科に関する調査」（テスト）の結果については、次のような方法で表示しています。

#### ①教科ごとの平均正答率（％）

全道・全国平均正答率との比較として、「記号」や「文言」で表します。

全国・全道平均との比較（ポイント差）	記号	文言
+5.0%以上	△	上回る
+2.0%～+4.9%	◇	やや上回る
-1.9%～+1.9%	≡	同様
-4.9%～-2.0%	◆	やや下回る
-5.0%以下	▼	下回る

恵庭市における「教科に関する調査」の実際の平均正答率数値については、他市町村等との単純比較や序列化などに結びつき、調査の目的を損ないかねないとの考えから、公表しません。

同様の理由により、市内小・中学校ごとの結果数値についても公表しません。

## ②教科の具体的な領域や設問ごとの（平均）正答率（％）

①のような全道・全国平均との比較形式のほか、市の（平均）正答率についても「記号」や「文言」で表します。

市の（平均）正答率	記号	文言
80%以上	◎	達成
60%～79%	○	
50%～59%	●	
49%以下	・	課題を有する

（※教科の領域ごとの結果では「平均正答率」、個々の設問の結果では「正答率」を表します。）

「教科に関する調査」（テスト）の結果と異なり、「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」（アンケート）の結果については、恵庭市の回答率をそのまま表示しています。

## （9）調査問題・質問内容および国・北海道の調査結果報告書について

調査問題及び質問紙調査の内容については、文部科学省の所管する国立教育政策研究所のウェブサイトの下記のアドレスから、PDF形式でダウンロードすることができます。

- ・ 調査問題及び質問紙調査の内容 ⇒ <http://www.nier.go.jp/15chousa/15mondai.htm>
- ・ 調査問題の正答例 ⇒ <http://www.nier.go.jp/15chousa/15seitourei.htm>
- ・ 調査問題の解説資料 ⇒ <http://www.nier.go.jp/15chousa/15kaisetu.htm>

また、国（文部科学省・国立教育政策研究所）としての調査結果報告書についても、同様にダウンロードすることができます。

- ・ 調査結果報告書（国） ⇒ <http://www.nier.go.jp/15chousakekkahoukoku/index.html>

北海道教育委員会としての調査結果報告書については、下記アドレスから、PDF形式でダウンロードすることができます。

- ・ 調査結果報告書（道）  
⇒ <http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/gks/gakuryoku27/top.htm>

（※上記に記載したウェブサイトのアドレスは、いずれも平成28年2月29日現在のものです。）



## 2 「教科に関する調査」調査結果

### (1) 小・中学校各教科平均正答率の状況

#### ★中学校数学で格差が改善

- ・前回（平成26年度または平成24年度）調査に引き続き、**小・中学校全ての教科において全国平均とのポイント差が上下5%の範囲内**であり、「全国平均と大きな差はみられない」状況にあります。
- ・特に、中学校（中学3年生）の数学において全国平均とのポイント差が改善し、A調査・B調査いずれにおいても、全国平均・全道平均と同様ながら、わずかに全道平均より上位となりました。また、中学校の理科では前回に引き続き、全国平均・全道平均と同様ながら、わずかに上位となりました。
- ・中学3年生は、3年前（平成24年度、小学6年生時点）の結果に比べて、全国平均とのポイント差が総じて改善しました。特に、数学Bは、小学校6年生時点の算数Bと比べて約3.5%改善しています。

#### \*平成27年度 恵庭市小・中学校の各教科別平均正答率（前回調査と比較）

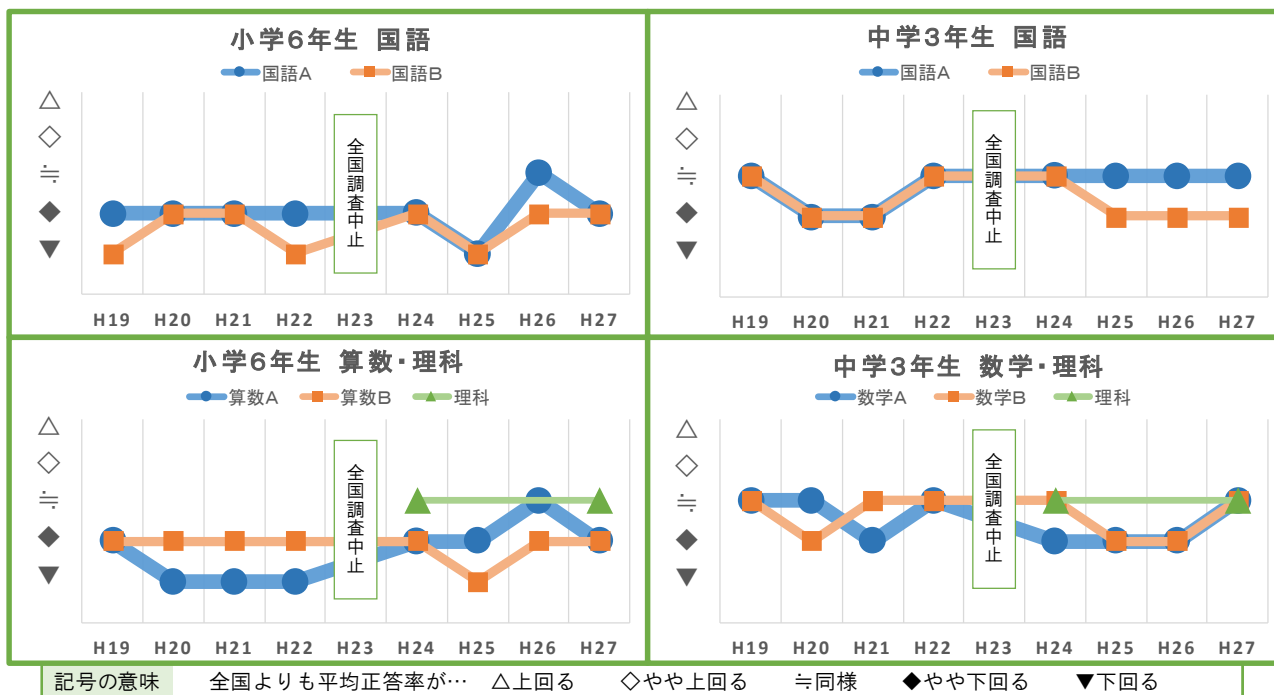
	年度	恵庭市正答率【前回】				恵庭市正答率【今回（H27年度）】					
		全国平均 （公立）	比較 （市-国）	全道平均 （公立）	比較 （市-道）	全国平均 （公立）	比較 （市-国）	前回 比	全道平均 （公立）	比較 （市-道）	前回 比
小学校	国語A	72.9%	≒	71.8%	◇	70.0%	◆	↓	68.1%	≒	↓
	国語B	55.5%	◆	52.9%	≒	65.4%	◆	→	63.0%	≒	→
	算数A	78.1%	≒	75.8%	≒	75.2%	◆	↓	72.3%	≒	→
	算数B	58.2%	◆	55.2%	≒	45.0%	◆	→	42.5%	≒	→
	理科	H24	60.9%	≒	58.6%	≒	60.8%	≒	→	59.3%	≒
中学校	国語A	79.4%	≒	79.4%	≒	75.8%	≒	→	75.8%	≒	→
	国語B	51.0%	◆	49.9%	≒	65.8%	◆	→	65.7%	◆	↓
	数学A	67.4%	◆	66.0%	≒	64.4%	≒	↑	63.0%	≒	→
	数学B	59.8%	◆	59.4%	◆	41.6%	≒	↑	39.7%	≒	↑
	理科	H24	51.0%	≒	50.3%	≒	53.0%	≒	→	53.3%	≒

#### \*H27年度正答率における恵庭市の位置

小学校	国語A	市 < 道 < 国	中学校	国語A	市 < 道 = 国
	国語B	市 < 道 < 国		国語B	市 < 道 < 国
	算数A	市 < 道 < 国		数学A	道 < 市 < 国
	算数B	市 < 道 < 国		数学B	道 < 市 < 国
	理科	市 < 道 < 国		理科	道 < 国 < 市

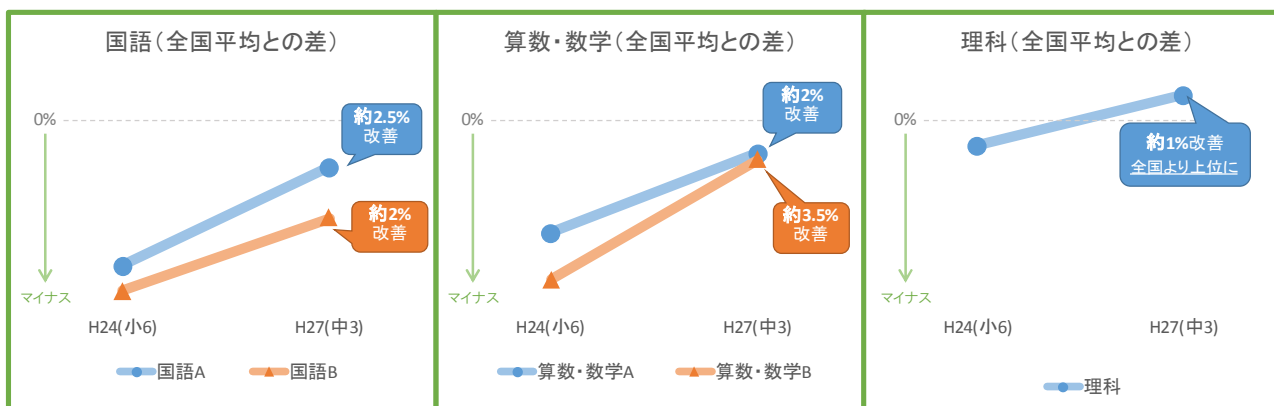
記号の意味	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≒同様	◆やや下回る	▼下回る
矢印の意味	前回調査と比べて結果が…	↑やや上向き	→ほぼ横ばい	↓やや下向き		

\* 調査開始（平成19年度）以降の平均正答率（全国（公立）との比較）推移



- ・平成23年度の調査は、東日本大震災の影響等を考慮し国としては実施を中止した（希望校のみの参考実施となり、恵庭市では全ての小・中学校が参加）ため、全国の結果（平均正答率など）が示されていません。
- ・平成22年度及び平成24年度の調査は、統計的な基準で選ばれた学校を対象とする「抽出調査」方式で実施されたため、他の年度と異なり、全国の結果（平均正答率など）に全ての学校の結果が反映されていません。（希望校も任意に実施できる形式であり、恵庭市では全ての小・中学校が参加して調査結果の提供を受けています。）

\* 同一世代の平均正答率の変化（平成24年度の小学6年生→今年度の中学3年生）



(2) 小・中学校各教科平均正答率の状況

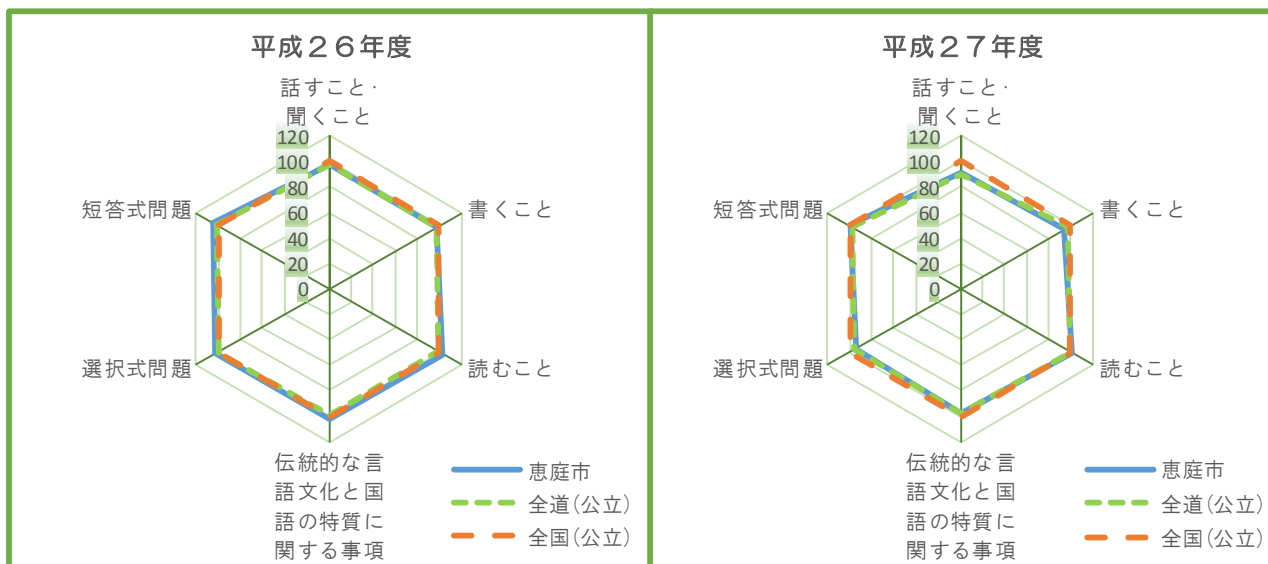
① 小学校 国語A (主として「知識」に関する問題)

解答時間20分・設問数14問

★平均正答率は全国平均をやや下回るが、5%以上の大きな差はなく推移

- 漢字の読みはよくできていましたが、一部の漢字の書きについて無解答率が高く、課題があります。定着を促すために、書く機会と指導の一層の充実が必要となります。
- 文の構成(特に主語の捉え)を答える設問や、話の目的や意図を捉えて自分の考えと比べながら聞きとる設問などで、正答率が全国平均を下回っています。話や文章を理解するためのポイントを意識しながら聞く・読む場面を繰り返し設けて、習熟を高めることが求められます。

\*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率(分野別レーダーチャート)



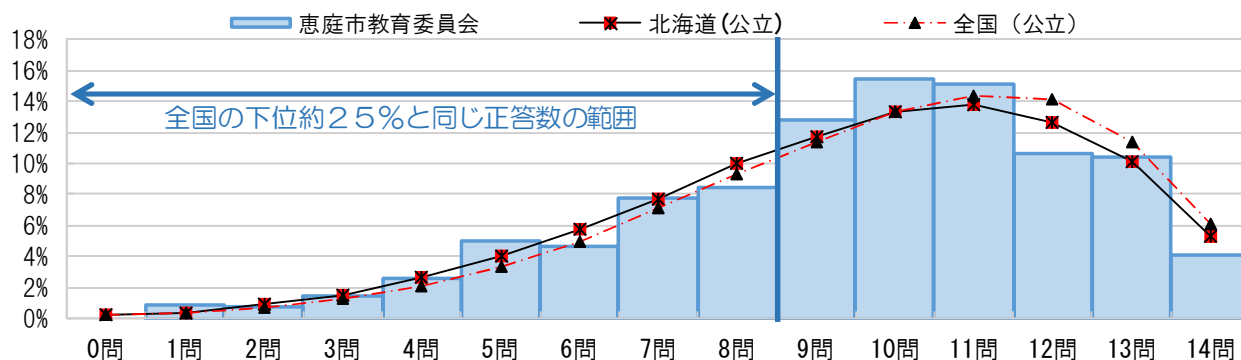
\*小学校国語A 分野別(領域・問題形式別)平均正答率(平成26年度と比較)

区分 (領域・問題形式)	前回(平成26年度)				今回(平成27年度)						
	恵庭市 正答率	全国(公立) 正答率	全道(公立) 正答率	比較	恵庭市 正答率	全国(公立) 正答率	全道(公立) 正答率	比較	前回比	比較	前回比
話すこと・聞くこと	○	72.4%	70.5%	◆	■	53.0%	47.4%	◆	→	→	→
書くこと	○	72.2%	70.1%	◆	◎	86.0%	84.0%	◆	→	◆	▽
読むこと	○	68.5%	67.6%	◇	●	55.2%	55.0%	≡	▽	≡	▽
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項	○	73.7%	72.6%	◇	○	77.2%	75.0%	◆	▽	≡	▽
選択式問題	○	66.6%	66.0%	◇	○	66.4%	63.7%	◆	▽	≡	▽
短答式問題	○	78.5%	76.9%	◇	○	73.7%	72.5%	≡	→	≡	▽
記述式問題	本形式の問題なし										

記号の意味	恵庭市の平均正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下	
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡同様	◆やや下回る	▽下回る
矢印の意味	前回調査と比べて結果が…	↗やや上向き	→ほぼ横ばい	↘やや下向き		



\*平成27年度 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：児童全体に占める割合）



\*全国の下位約25%の児童と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

	平成26年度			平成27年度			・()書きは前回比。 ・「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」にある児童・生徒の数値であり、全国の数値についても丁度25%にはならない。
	恵庭市	全道(公立)	全国(公立)	恵庭市	全道(公立)	全国(公立)	
割合 (低いほど良好)	24.0%	29.7%	28.2%	31.6% (+7.6%)	33.1% (+3.4%)	29.4% (+1.2%)	
全国との差 (マイナスなほど優位)	-4.2%	1.5%		2.2% (+6.4%)	3.7% (+2.2%)		

\*恵庭市における設問別結果の概要

全14問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を3%以上上回った設問	2問	話すこと・聞くこと	0 / 1問	選択式問題	0 / 7問
		書くこと	0 / 1問	短答式問題	2 / 7問
		読むこと	1 / 4問	記述式問題	/ 0問
		伝統的な言語文化…	1 / 9問		
		設問の主な内容	コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く/漢字を書く		
全国の正答率を3%以上下回った設問	6問	話すこと・聞くこと	1 / 1問	選択式問題	4 / 7問
		書くこと	1 / 1問	短答式問題	2 / 7問
		読むこと	1 / 4問	記述式問題	/ 0問
		伝統的な言語文化…	3 / 9問		
		設問の主な内容	聞き方の説明として適切なものを選択する/説明の文章の書き方として適切なものを選択する/コラムの中で筆者の読書体験が書いてあるまとまりを選択する/漢字を書く/文の主語として適切なものを選択する		
無解答率が10%以上の設問	2問	話すこと・聞くこと	0 / 1問	選択式問題	0 / 7問
		書くこと	0 / 1問	短答式問題	2 / 7問
		読むこと	0 / 4問	記述式問題	/ 0問
		伝統的な言語文化…	2 / 9問		
		設問の主な内容	[-]漢字を書く		

※[+]印、[-]印のついている設問は、それぞれ全国の正答率を3%以上上回った設問、下回った設問と重複するもの。

【無解答率とは】

児童・生徒が問題に取り組むのを断念し、何も解答しなかった割合です。その問題がねらいとしている内容を考えたり、書いたりすること自体を「難しい」「手に負えない」と感じていることが表れています。したがって、無解答率の高い問題では、解き方や考え方の習熟に課題があり、指導にいつその丁寧さや工夫が求められるといえます。

\* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★ 恵庭市の正答率が全国の正答率を3%以上上回った設問									
1二2	漢字を書く (鳥の <u>ま</u> を観察する)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	短答	◎	76.5%	△	73.8%	△
5二	コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く	新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える	読むこと	短答	▪	19.8%	◇	22.2%	≡
★ 恵庭市の正答率が全国の正答率を3%以上下回った設問									
1二1	漢字を書く (シャワーを <u>あ</u> びる)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	短答	●	58.4%	▼	57.2%	◆
1二3	漢字を書く ( <u>びょういん</u> に行く)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	短答	○	74.9%	▼	69.3%	≡
2一	文の主語として適切なものを選択する	文の中における主語を捉える	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択	▪	53.1%	▼	47.8%	▼
3	聞き方の説明として適切なものを選択する	話の内容に対する聞き方を工夫する	話すこと・聞くこと	選択	▪	53.0%	◆	47.4%	≡
4	説明の文章の書き方の工夫として適切なものを選択する	具体的な事例を挙げて説明する文章を書く	書くこと	選択	◎	86.0%	◆	84.0%	◆
5一	コラムの中で筆者の読書体験が書いてあるまとりを選択する	新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える	読むこと	選択	●	59.5%	◆	57.9%	≡

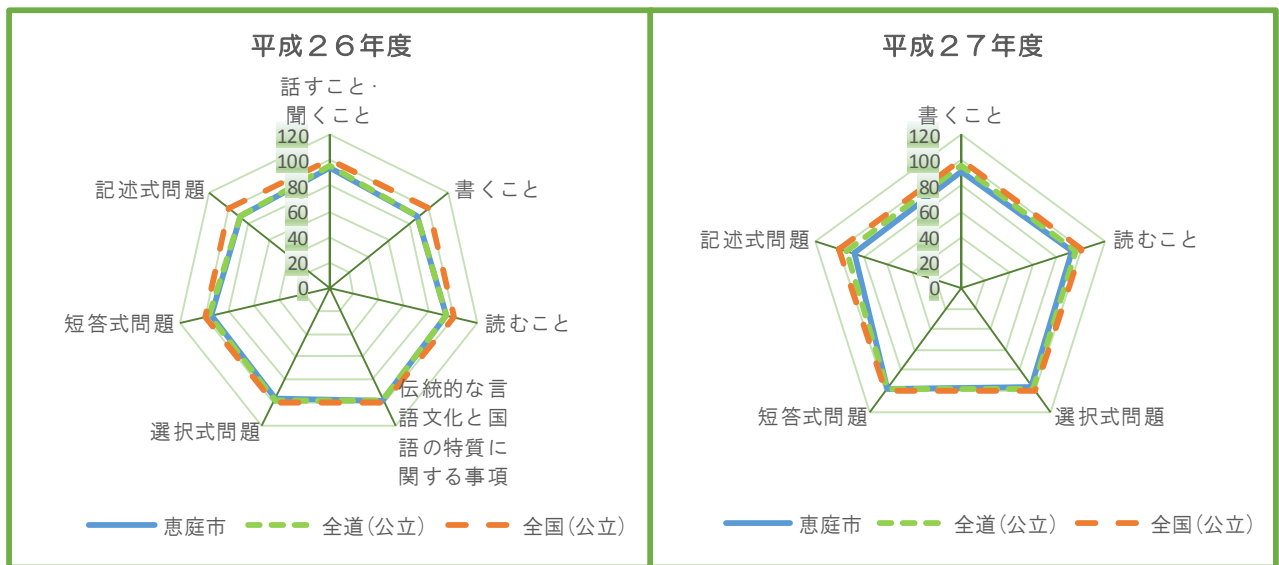
記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡同様	◆やや下回る ▼下回る

★平均正答率は全国平均をやや下回る。記述式問題に課題

・前回から引き続き、記述式問題の正答率が全国平均より下回る傾向があります。ポイント差の原因はほとんどが「誤答」ではなく「無解答」で、こうした問題を解くことに苦手意識やあきらめの気持ちを持つ児童が多いことが考えられます。無解答率をいかに低減させるかが、学力の底上げのために重要な課題となります。

・多様な文章を時に資料と関連付けながら読み、意識して構成や要旨を捉え、問われたことに合わせた言葉や自分の考えを「書く」という経験・指導を充実させることを通じて、「文章を書いて答える」こと自体に自信を持ってもらえるよう取り組んでいかなければなりません。

\*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率(分野別レーダーチャート)

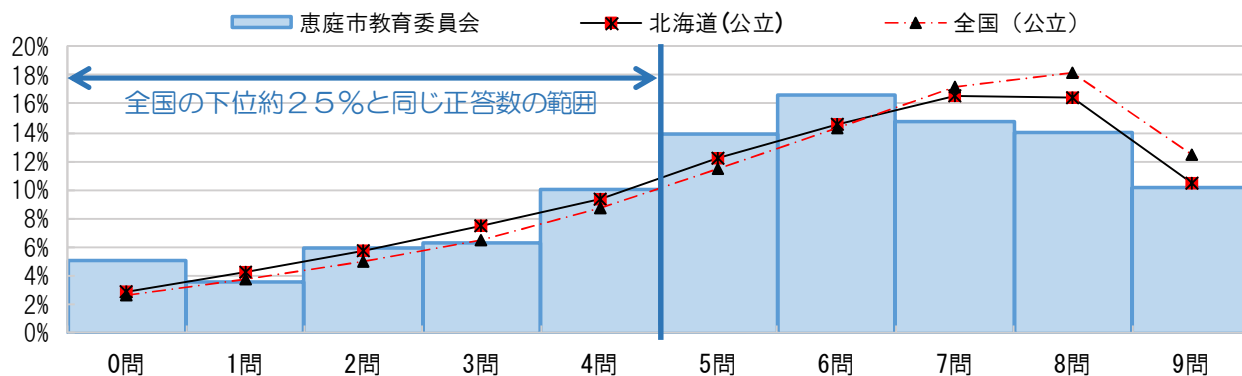


\*小学校国語B 分野別(領域・問題形式別)平均正答率(平成26年度と比較)

区分 (領域・問題形式)	前回(平成26年度)				今回(平成27年度)							
	恵庭市 正答率	全国(公立)		全道(公立)		恵庭市 正答率	全国(公立)		全道(公立)			
		正答率	比較	正答率	比較		正答率	比較	前回比	正答率	比較	前回比
話すこと・聞くこと	■	51.2%	◆	49.2%	≡	本形式の問題なし						
書くこと	■	34.4%	◆	30.7%	≡	●	61.1%	▼	↘	58.4%	◆	↘
読むこと	●	57.3%	◆	54.5%	≡	○	68.1%	◆	→	65.4%	◆	↘
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項	○	69.8%	≡	68.0%	≡	本形式の問題なし						
選択式問題	○	62.1%	◆	60.4%	≡	○	68.6%	◆	→	66.7%	≡	→
短答式問題	○	67.7%	◆	65.1%	≡	○	80.8%	≡	↗	79.3%	≡	→
記述式問題	■	34.4%	◆	30.7%	≡	■	55.4%	▼	↘	52.1%	◆	↘

記号の意味	恵庭市の平均正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下	
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡同様	◆やや下回る	▼下回る
矢印の意味	前回調査と比べて結果が…	↗やや上向き	→ほぼ横ばい	↘やや下向き		

\*平成27年度 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：児童全体に占める割合）



\*全国の下位約25%の児童と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

	平成26年度			平成27年度			・( )書きは前回比。 ・「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」にある児童・生徒の数値であり、全国の数値についても丁度25%にはならない。
	恵庭市	全道(公立)	全国(公立)	恵庭市	全道(公立)	全国(公立)	
割合 (低いほど良好)	<b>23.6%</b>	23.9%	21.0%	<b>30.7%</b> (+7.1%)	29.6% (+5.7%)	26.5% (+5.5%)	
全国との差 (マイナスほど優位)	<b>2.6%</b>	2.9%		<b>4.2%</b> (+1.6%)	3.1% (+0.2%)		

\*恵庭市における設問別結果の概要

全9問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を3%以上上回った設問	なし				
全国の正答率を3%以上下回った設問	6問	話すこと・聞くこと	/ 0問	選択式問題	2 / 3問
		書くこと	5 / 6問	短答式問題	0 / 2問
		読むこと	4 / 6問	記述式問題	4 / 4問
		伝統的な言語文化…	/ 0問	※領域の重複する設問がある。	
		設問の主な内容	新聞の割り付けとして適切なものを選択する／インタビューの様子の内容をまとめて書く／文章の要旨をまとめて書く／分担の決め方について【分担図】を基にして書く／声に出して読むときの工夫とその理由を書く／絵の場面が始まる物語のまとまりとして適切なものを選択する／		
無解答率が10%以上の設問	4問	話すこと・聞くこと	/ 0問	選択式問題	1 / 3問
		書くこと	3 / 6問	短答式問題	0 / 2問
		読むこと	4 / 6問	記述式問題	3 / 4問
		伝統的な言語文化…	/ 0問	※領域の重複する設問がある。	
		設問の主な内容	[-]文章の要旨をまとめて書く／[-]分担の決め方について【分担図】を基にして書く／[-]声に出して読むときの工夫とその理由を書く／[-]絵の場面が始まる物語のまとまりとして適切なものを選択する／		

※[+]印、[-]印の付いている設問は、それぞれ全国の正答率を3%以上上回った設問、下回った設問と重複するもの。

\* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★ 恵庭市の正答率が全国の正答率を3%以上下回った設問									
1ー	新聞の割り付けとして適切なものを選択する	目的や意図に応じ、新聞の割り付けをする	書くこと	選択	○	74.6%	◆	72.8%	≡
						無解答率とその比較	1.4%	0.5%	+0.9%
1三	【中田とよさんへのインタビューの様子】の内容をまとめて書く	目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く	書くこと	記述	▪	34.7%	▼	33.1%	◆
						無解答率とその比較	8.9%	4.0%	+4.9%
2二	【文章】の要旨をまとめて書く	目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉える	書くこと、読むこと	記述	○	78.4%	◆	77.0%	◆
						無解答率とその比較	11.5%	7.0%	+4.5%
2三	楽器の分担の決め方について、【楽器の分担図】を基にして書く	文章と図とを関係付けて、自分の考えを書く	書くこと、読むこと	記述	▪	41.6%	◆	37.7%	≡
						無解答率とその比較	17.3%	8.7%	+8.6%
3一	〈絵3〉の場面が始まるままとまりとして適切なものを選択する	登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉える	読むこと	選択	●	60.4%	◆	58.2%	◆
						無解答率とその比較	11.6%	9.7%	+1.9%
3二	声に出して読むときの工夫とその理由を書く	登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読する	書くこと、読むこと	記述	●	66.6%	▼	60.6%	▼
						無解答率とその比較	25.6%	15.1%	+10.5%
記号の意味	恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下 比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≡同様 ◆やや下回る ▼下回る								



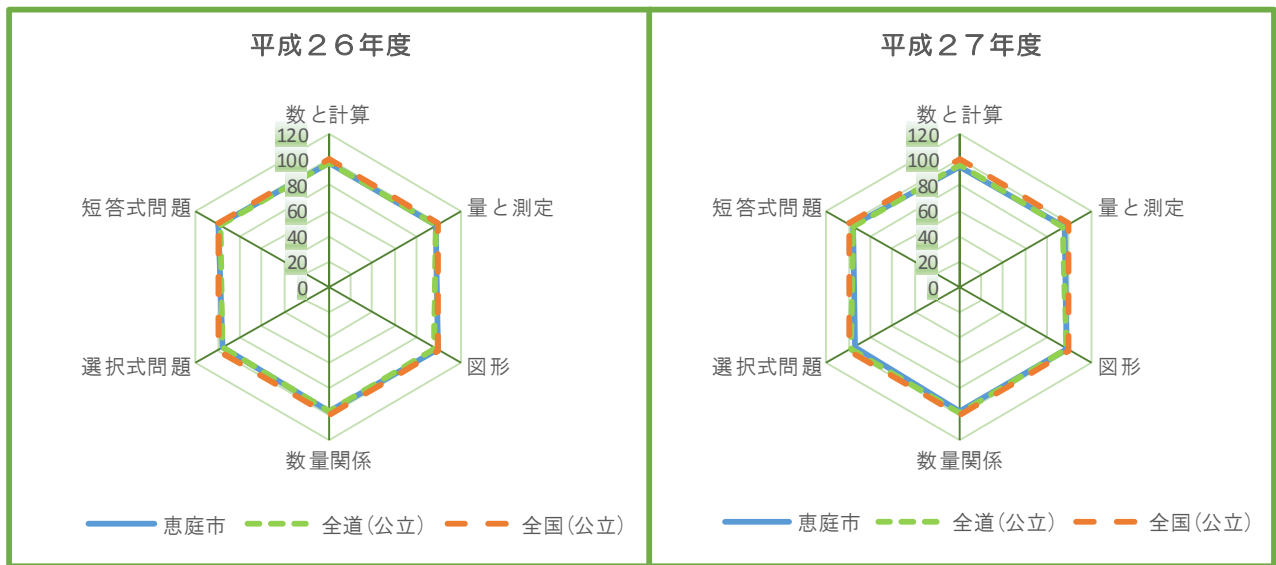
③ 小学校 算数 A (主として「知識」に関する問題)

解答時間20分・設問数16問

★平均正答率は全国平均をやや下回るが、基礎・基本はおおむね定着

- ・前回と比べ、平均正答率の全国平均との差がわずかに拡大しましたが、全般的にどの領域でも達成度（正答率）が高めで、無解答率も低い傾向にあり、基礎・基本がおおむね定着している状況が続いていると考えられます。
- ・位の揃っていない小数の引き算、分数と整数の割り算、 $180^\circ$  より大きい角の求め方、立体図形の見取図と展開図を結びつけた面どうしのつながりの理解など、幅広い項目で、解き方・考え方が身につけていないことによる誤答が一定数見られます。具体的問題に取り組むことを通して一つ一つの解法を丁寧に実践させていくことが、学力の底上げに繋がります。

\*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率（分野別レーダーチャート）

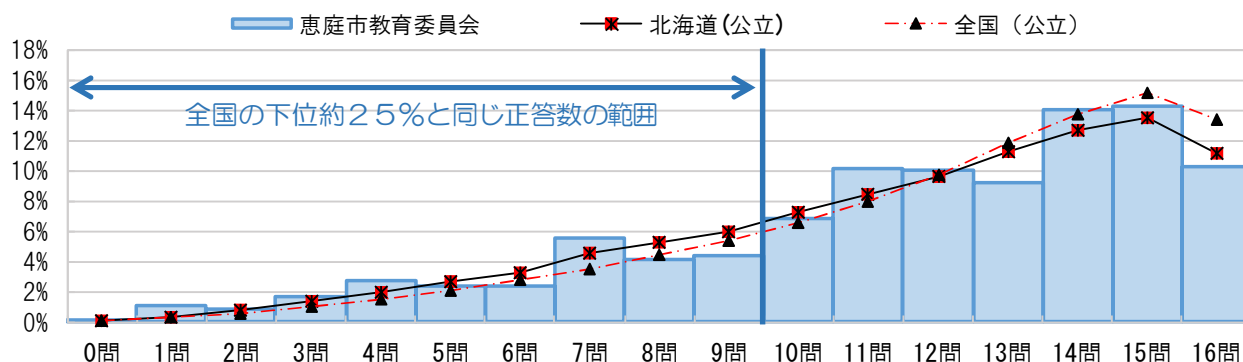


\*小学校算数 A 分野別（領域・問題形式別）平均正答率（平成26年度と比較）

区分 (領域・問題形式)	前回（平成26年度）				今回（平成27年度）							
	恵庭市 正答率	全国(公立)		全道(公立)		恵庭市 正答率	全国(公立)		全道(公立)			
		正答率	比較	正答率	比較		正答率	比較	前回比	正答率	比較	前回比
数と計算	○	81.8%	◆	79.6%	≡	○	80.1%	◆	→	77.0%	≡	→
量と測定	○	74.8%	≡	72.6%	≡	○	71.3%	◆	↘	66.5%	≡	→
図形	○	71.8%	≡	69.0%	≡	○	64.5%	≡	→	62.6%	≡	→
数量関係	○	81.3%	≡	79.6%	≡	◎	84.9%	◆	↘	83.6%	≡	→
選択式問題	○	70.7%	◆	67.8%	≡	○	70.5%	◆	→	68.3%	≡	→
短答式問題	◎	84.8%	≡	83.0%	≡	○	77.3%	◆	↘	74.1%	≡	→
記述式問題		本形式の問題なし										

記号の意味	恵庭市の平均正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下	
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡同様	◆やや下回る	▼下回る
矢印の意味	前回調査と比べて結果が…	↗やや上向き	→ほぼ横ばい	↘やや下向き		

\*平成27年度 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：児童全体に占める割合）



\*全国の下位約25%の児童と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

	平成26年度			平成27年度			・()書きは前回比。 ・「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」にある児童・生徒の数値であり、全国の数値についても丁度25%にはならない。
	恵庭市	全道(公立)	全国(公立)	恵庭市	全道(公立)	全国(公立)	
割合 (低いほど良好)	29.2%	29.8%	25.6%	25.4% (-3.8%)	26.3% (-3.5%)	21.7% (-3.9%)	
全国との差 (マイナスなほど優位)	3.6%	4.2%		3.7% (+0.1%)	4.6% (+0.4%)		

\*恵庭市における設問別結果の概要

全16問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を3%以上上回った設問	なし				
全国の正答率を3%以上下回った設問	8問	数と計算	4 / 7問	選択式問題	3 / 5問
		量と測定	2 / 3問	短答式問題	5 / 11問
		図形	1 / 4問	記述式問題	/ 0問
		数量関係	1 / 2問		
		設問の主な内容	小数の減法の概算の結果として適当な数値を選ぶ／末尾の位の揃っていない小数の減法を計算する／異分母の分数の減法を計算する／除数が整数である分数の除法を計算する／180°より大きい角の大きさを2直角・3直角を基に見当付けて選ぶ／180°より大きい角の大きさを分度器を用いて求める／作成途中の直方体の展開図の残り1つの面を付けてかく辺を選ぶ／○を並べた図を表現した式を読み、数に対応する○を黒く塗る		
無解答率が10%以上の設問	1問	数と計算	1 / 7問	選択式問題	0 / 5問
		量と測定	0 / 3問	短答式問題	1 / 11問
		図形	0 / 4問	記述式問題	/ 0問
		数量関係	0 / 2問		
		設問の主な内容	[-]除数が整数である分数の除法を計算する		

※[+]印、[-]印のついている設問は、それぞれ全国の正答率を3%以上上回った設問、下回った設問と重複するもの。

\* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★ 恵庭市の正答率が全国の正答率を3%以上下回った設問									
1(1)	8.9-0.78の差の概算の結果として、ふさわしい数値を選ぶ	小数の減法について、計算の結果のおよその大きさを捉えることができる	数と計算	選択	○	71.0%	▼	69.4%	▼
						無解答率とその比較	0.6%	0.6%	0.0%
2(2)	6.79-0.8を計算する	末尾の位のそろっていない小数の減法の計算をすることができる	数と計算	短答	○	69.5%	▼	68.5%	▼
						無解答率とその比較	1.5%	0.7%	+0.8%
2(3)	5/9-1/4を計算する	異分母の分数の減法の計算をすることができる	数と計算	短答	○	81.4%	◆	77.6%	≡
						無解答率とその比較	3.0%	1.8%	+1.2%
2(4)	5/6÷7を計算する	除数が整数である場合の分数の除法の計算をすることができる	数と計算	短答	○	84.2%	▼	72.7%	◇
						無解答率とその比較	10.7%	4.1%	+6.6%
4(1)	90°, 180°, 270°, 360°を基準として角の大きさを見当付けたものから、正しいものを選ぶ	180°よりも大きい角のおよその大きさを、2直角、3直角を基に捉えることができる	量と測定	選択	○	81.3%	◆	76.5%	≡
						無解答率とその比較	1.1%	0.3%	+0.8%
4(2)	分度器の目盛りを読み、180°よりも大きい角の大きさを求める	180°や360°を基に分度器を用いて、180°よりも大きい角の大きさを求めることができる	量と測定	短答	●	58.0%	◆	51.4%	◇
						無解答率とその比較	0.8%	0.5%	+0.3%
6(2)	作成途中の直方体の展開図について、残りの一つの面を付けてかく辺を選ぶ	見取図と展開図を関連付けて、立体図形の辺や面の位置関係を理解している	図形	選択	○	67.6%	▼	65.6%	▼
						無解答率とその比較	6.5%	3.4%	+3.1%
8	○を並べた図を基に式を読み、数に対応する○を黒く塗る	式で表現された数量の関係を図と関連付けて理解することができる	数量関係	短答	◎	88.1%	◆	86.2%	≡
						無解答率とその比較	8.3%	4.6%	+3.7%

記号の意味	恵庭市の正答率が… ◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が… △上回る	◇やや上回る	≡同様	◆やや下回る ▼下回る



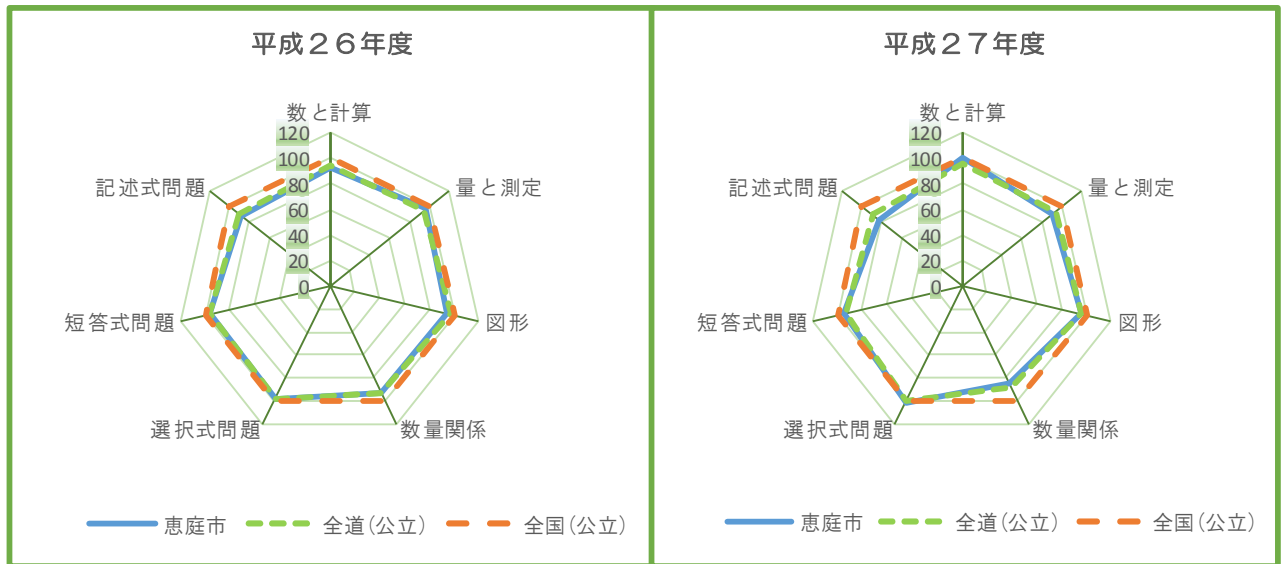
④ 小学校 算数 B (主として「活用」に関する問題)

解答時間40分・設問数13問

★分野により平均正答率の変動にばらつき。無解答率の高さが課題

- 全体としては全国平均をやや下回る状況で、前回調査から大きな変化はありませんが、「数と計算」「図形」領域では全国平均とのポイント差が改善してほぼ同様となる一方で、「量と測定」「数量関係」領域ではポイント差が拡大しました。
- 前回に引き続き「記述式問題」全般で全国平均より無解答率が相当高く、正答率を押し下げています。児童が考えを表現しあう機会を指導の折々で充実させることにより、「根拠や筋道を踏まえた説明をすること」に対する苦手意識を取り除いていく取り組みが求められます。具体的な設問では、割合の変化を理解し基準の数量を求めることなどに課題が見られました。

\* 全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率（分野別レーダーチャート）

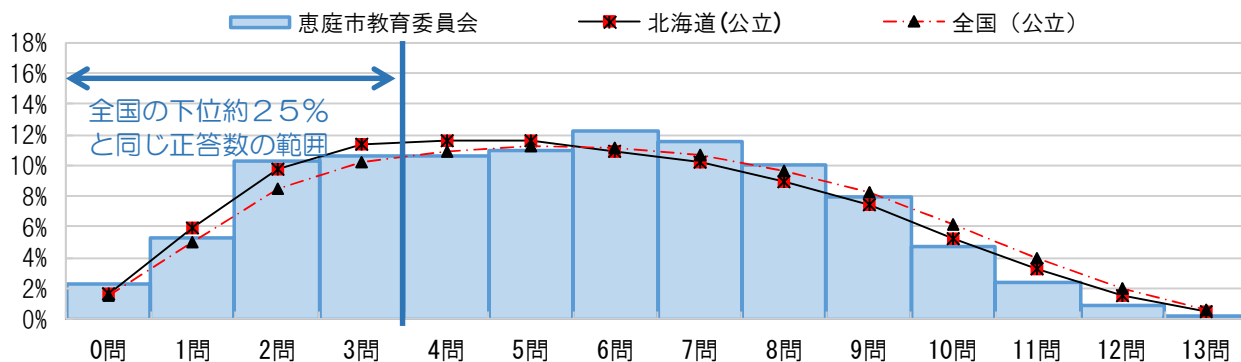


\* 小学校算数 B 分野別（領域・問題形式別）平均正答率（平成26年度と比較）

区分 (領域・問題形式)	前回（平成26年度）				今回（平成27年度）							
	恵庭市 正答率	全国(公立)		全道(公立)		恵庭市 正答率	全国(公立)		全道(公立)			
		正答率	比較	正答率	比較		正答率	比較	前回比	正答率	比較	前回比
数と計算	●	61.3%	◆	58.1%	≡	■	42.4%	≡	↗	40.7%	≡	→
量と測定	●	56.5%	≡	53.6%	≡	■	41.7%	◆	↘	39.0%	≡	→
図形	○	65.7%	◆	64.6%	◆	■	45.6%	≡	↗	43.9%	≡	↗
数量関係	●	56.2%	◆	52.7%	≡	■	43.0%	▼	↘	38.2%	≡	→
選択式問題	○	64.7%	≡	63.5%	≡	○	70.6%	≡	→	70.2%	≡	→
短答式問題	●	62.2%	◆	59.8%	≡	■	42.2%	◆	→	39.2%	≡	→
記述式問題	■	49.7%	▼	44.8%	≡	■	32.5%	▼	→	29.0%	◆	↘

記号の意味	恵庭市の平均正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下	
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡同様	◆やや下回る	▼下回る
矢印の意味	前回調査と比べて結果が…	↗やや上向き	→ほぼ横ばい	↘やや下向き		

\*平成27年度 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：児童全体に占める割合）



\*全国の下位約25%の児童と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

	平成26年度			平成27年度			・( )書きは前回比。 ・「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」にある児童・生徒の数値であり、全国の数値についても丁度25%にはならない。
	恵庭市	全道(公立)	全国(公立)	恵庭市	全道(公立)	全国(公立)	
割合 (低いほど良好)	32.3%	32.3%	28.1%	28.5% (-3.8%)	28.8% (-3.5%)	25.2% (-2.9%)	
全国との差 (マイナスなほど優位)	4.2%	4.2%		3.3% (-0.9%)	3.6% (-0.6%)		

\*恵庭市における設問別結果の概要

全13問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を3%以上上回った設問	2問	数と計算	1 / 4問	選択式問題	1 / 3問
		量と測定	0 / 3問	短答式問題	1 / 5問
		図形	2 / 7問	記述式問題	0 / 5問
		数量関係	0 / 3問	※領域の重複する設問がある。	
	設問の主な内容	作図に用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ／ある周の長さの正三角形を巻尺で作るために、どこの目盛りのところを持ってばよいかを書く			
全国の正答率を3%以上下回った設問	6問	数と計算	0 / 4問	選択式問題	0 / 3問
		量と測定	2 / 3問	短答式問題	3 / 5問
		図形	3 / 7問	記述式問題	3 / 5問
		数量関係	3 / 3問	※領域の重複する設問がある。	
	設問の主な内容	最も安くなる買い方を選び、その時の代金を書く／示された図形の色がついた部分の面積を求める／二組の道のりが等しくなる根拠を図形の性質を見だして書く／合同な二つの三角形を巻尺でつくったときに、ある角が30°になるわけを書く／増量前の内容量を求める式と答えを書く／示された割り引き後の値段の求め方の中から誤りを見だし、正しい求め方と答えを書く			
無解答率が10%以上の設問	7問	数と計算	2 / 4問	選択式問題	0 / 3問
		量と測定	2 / 3問	短答式問題	2 / 5問
		図形	5 / 7問	記述式問題	5 / 5問
		数量関係	1 / 3問	※領域の重複する設問がある。	
	設問の主な内容	[+]ある周の長さの正三角形を巻尺で作るために、どこの目盛りのところを持ってばよいかを書く／概数を用いた見積りにより判断できるわけを書く／示された図において分割された二つの図形の面積が等しくなるわけを書く／[-]示された図形の色がついた部分の面積を求める／[-]合同な二つの三角形を巻尺でつくったときに、ある角が30°になるわけを書く／[-]二組の道のりが等しくなる根拠を図形の性質を見だして書く／[-]示された割り引き後の値段の求め方の中から誤りを見だし、正しい求め方と答えを書く			

※[+]印、[-]印のついている設問は、それぞれ全国の正答率を3%以上上回った設問、下回った設問と重複するもの。

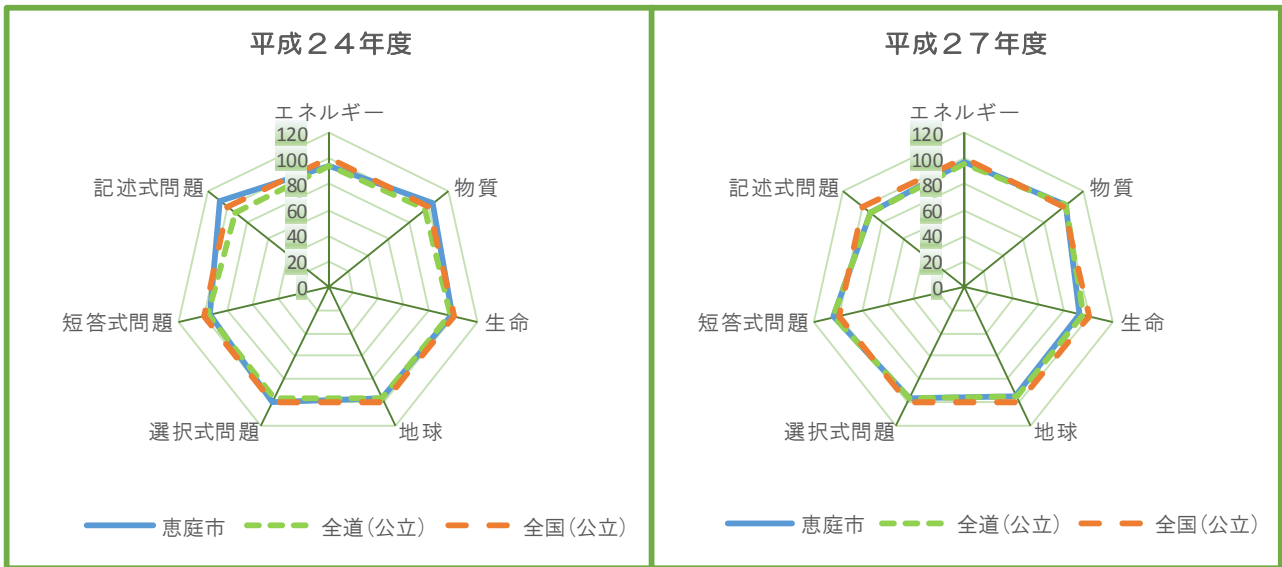
\* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3%以上上回った設問</b>									
1(2)	作図に用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ	平行四辺形の作図の方法に用いられる図形の約束や性質を理解している	図形	選択	●	54.6%	◇	55.4%	◇
						無解答率とその比較	1.5%	1.0%	+0.5%
3(1)	周の長さが24mの正三角形を巻き尺でつくるために、それぞれこの目盛りのところを持ってばよいかを書く	正三角形の性質を基に、示された周の長さから辺の長さが等しくなる位置を求めることができる	数と計算、図形	短答	■	32.5%	◇	32.7%	◇
						無解答率とその比較	12.5%	6.7%	+5.8%
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3%以下下回った設問</b>									
1(3)	二組の道のりが、それぞれ等しくなることを書く	示された二組の道のりが等しくなる根拠として、図形を見だし、その図形の性質を記述できる	図形	記述	■	27.7%	▼	24.7%	◆
						無解答率とその比較	22.5%	14.3%	+8.2%
2(1)	トマトを7個買うとき、最も安くなる買い方を選び、そのときの代金を書く	単位量当たりの大きさを用いて、目的に応じた買物の仕方を選択し、代金を求めることができる	量と測定、数量関係	短答	○	64.8%	◆	61.0%	≡
						無解答率とその比較	0.8%	0.3%	+0.5%
2(2)	20%増量した商品の内容量が480mLであるとき、増量前の内容量を求める式と答えを書く	示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めることができる	数量関係	短答	■	13.1%	▼	8.9%	◆
						無解答率とその比較	7.6%	4.5%	+3.1%
2(3)	示された割り引き後の値段の求め方の中から誤りを見だし、正しい求め方と答えを書く	示された割り引き後の値段の求め方の中から誤りを指摘し、正しい求め方と答えを記述できる	数量関係	記述	■	51.0%	▼	44.7%	◆
						無解答率とその比較	21.0%	12.8%	+8.2%
3(2)	合同な二つの三角形を巻き尺でつくったときに、⑦の角が30°になるわけを書く	正三角形の性質や合同な三角形の性質を基に、⑦の角が30°になる理由を記述できる	図形	記述	■	49.1%	▼	43.7%	◆
						無解答率とその比較	33.4%	18.9%	+14.5%
5(2)	示された図形の色がついた部分の面積を求める	条件を変更した場合に面積を2等分する考えを適用して、示された部分の面積を求めることができる	量と測定、図形	短答	■	47.8%	▼	43.8%	≡
						無解答率とその比較	28.2%	17.3%	+10.9%
<b>★上記以外で、恵庭市の無回答率が10%以上になった設問</b>									
4(3)	目標に達するには、12月に3000個のキャップを集めればよいわけを書く	概数を用いた見積りの結果とそれに基づく判断を理解し、3000個集めればよい理由を記述できる	数と計算	記述	■	22.3%	◆	19.8%	≡
						無解答率とその比較	27.2%	15.3%	+11.9%
5(1)	示された図において、分割された二つの図形の面積が等しくなるわけを書く	長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述できる	量と測定、図形	記述	■	12.5%	◆	12.2%	◆
						無解答率とその比較	36.4%	21.0%	+15.4%
記号の意味		恵庭市の正答率が… ○80%以上    ○60%~79%    ●50%~59%    ・49%以下 比較先よりも平均正答率が… △上回る    ◇やや上回る    ≡同様    ◆やや下回る    ▼下回る							

★全国平均正答率と5%以上の大きな差はなく推移

- ・「物質」領域の正答率が全国平均と同様ながらわずかに上位となった一方、「生命」「地球」領域の正答率は全国平均をやや下回っています。
- ・具体的な設問からは、メダカの雌雄の見分け方、顕微鏡の名称や操作方法、物の溶け方といった「基本的な知識の定着」と、植物の生育の仕方と日光・日影の関連、方位・天体の位置関係の結びつき等を、実際の状況や資料に当てはめて考察する「応用力の育成」の双方に課題があることが分かります。日々の学習や観察・実験の中で「行ったこと」「考え方」「分かったこと」を、身近な物事と結びつけながら丁寧に振り返る指導を積み重ねていく必要があります。

\*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率（分野別レーダーチャート）

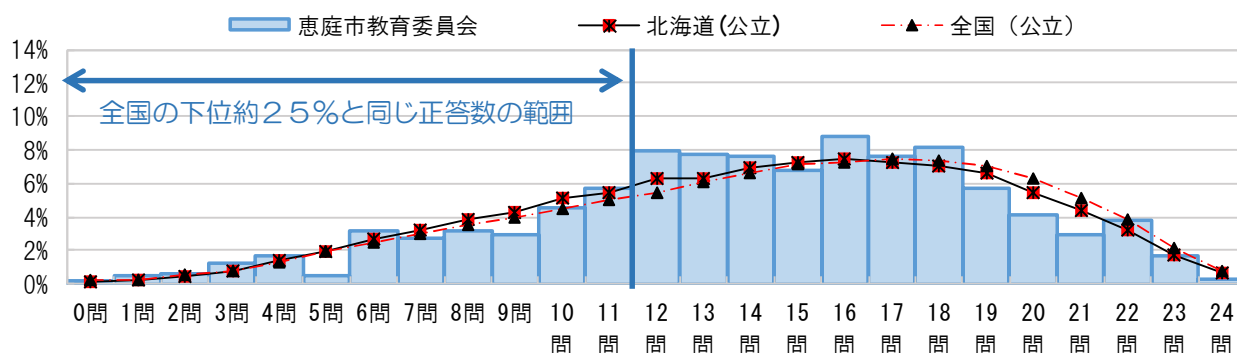


\*小学校理科 分野別（領域・問題形式別）平均正答率（平成24年度と比較）

区分 (領域・問題形式)	前回（平成24年度）				今回（平成27年度）							
	恵庭市 正答率	全国(公立)		全道(公立)		恵庭市 正答率	全国(公立)		全道(公立)			
		正答率	比較	正答率	比較		正答率	比較	前回比	正答率	比較	前回比
エネルギー	●	59.8%	◆	56.2%	≡	○	65.6%	≡	↗	63.3%	≡	→
物質	○	61.4%	◇	59.5%	◇	●	57.4%	≡	↘	58.2%	≡	↘
生命	○	68.6%	≡	66.7%	≡	●	61.2%	◆	↘	58.8%	◆	↘
地球	▪	50.6%	≡	48.6%	≡	●	57.8%	◆	↘	54.9%	≡	→
選択式問題	○	65.0%	≡	62.9%	≡	○	62.9%	◆	↘	61.1%	≡	→
短答式問題	○	63.9%	◆	61.4%	≡	○	63.6%	◇	↗	66.0%	≡	→
記述式問題	▪	34.5%	◇	31.8%	△	▪	45.3%	◆	↘	42.0%	≡	↘

記号の意味 恵庭市の平均正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ▪49%以下  
 比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≡同様 ◆やや下回る ▼下回る  
 矢印の意味 前回調査と比べて結果が… ↗やや上向き →ほぼ横ばい ↘やや下向き

\*平成27年度 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：児童全体に占める割合）



\*全国の下位約25%の児童と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

	平成24年度			平成27年度			・( )書きは前回比。 ・「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」にある児童・生徒の数値であり、全国の数値についても丁度25%にはならない。
	恵庭市	全道(公立)	全国(公立)	恵庭市	全道(公立)	全国(公立)	
割合 (低いほど良好)	<b>23.0%</b>	29.1%	25.5%	<b>27.0%</b> (+4.0%)	29.3% (+0.2%)	27.4% (+1.9%)	
全国との差 (マイナスなほど優位)	<b>-2.5%</b>	3.6%		<b>-0.4%</b> (+2.1%)	1.9% (-1.7%)		

\*恵庭市における設問別結果の概要

全24問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を3%以上上回った設問	2問	エネルギー	0 / 6問	選択式問題	1 / 18問
		物質	2 / 7問	短答式問題	1 / 3問
		生命	0 / 6問	記述式問題	0 / 3問
		地球	0 / 7問		
設問の主な内容		器具(メスシリンダー)の名称を書く/メスシリンダーで水をはかり取る適切な扱い方を選ぶ			
全国の正答率を3%以上下回った設問	9問	エネルギー	1 / 6問	選択式問題	7 / 18問
		物質	1 / 7問	短答式問題	1 / 3問
		生命	4 / 6問	記述式問題	1 / 3問
		地球	3 / 7問		
設問の主な内容		振り子の運動の規則を基に振り子時計の進み方を調整する内容を選ぶ/グラフから水の温度が下がったときに出てくる砂糖の量を選び、選んだわけを書く/メダカの雌雄を見分けるために観察する部分を選ぶ/生物の成長に必要な養分のとり方を仲間分けした観点を選ぶ/器具(顕微鏡)の名称を書く/顕微鏡の適切な操作方法を選ぶ/方位についての情報から観察している方位を選ぶ/夕方に見られる月の形と場所を選ぶ/星座の動きを捉えるために記録が必要な事項を選ぶ			
無解答率が10%以上の設問	2問	エネルギー	0 / 6問	選択式問題	0 / 18問
		物質	0 / 7問	短答式問題	2 / 3問
		生命	1 / 6問	記述式問題	0 / 3問
		地球	1 / 7問		
設問の主な内容		[-]器具(顕微鏡)の名称を書く/水が水蒸気になる現象の名称を書く			

※[+]印、[-]印のついている設問は、それぞれ全国の正答率を3%以上上回った設問、下回った設問と重複するもの。

\* 主な設問別結果一覧

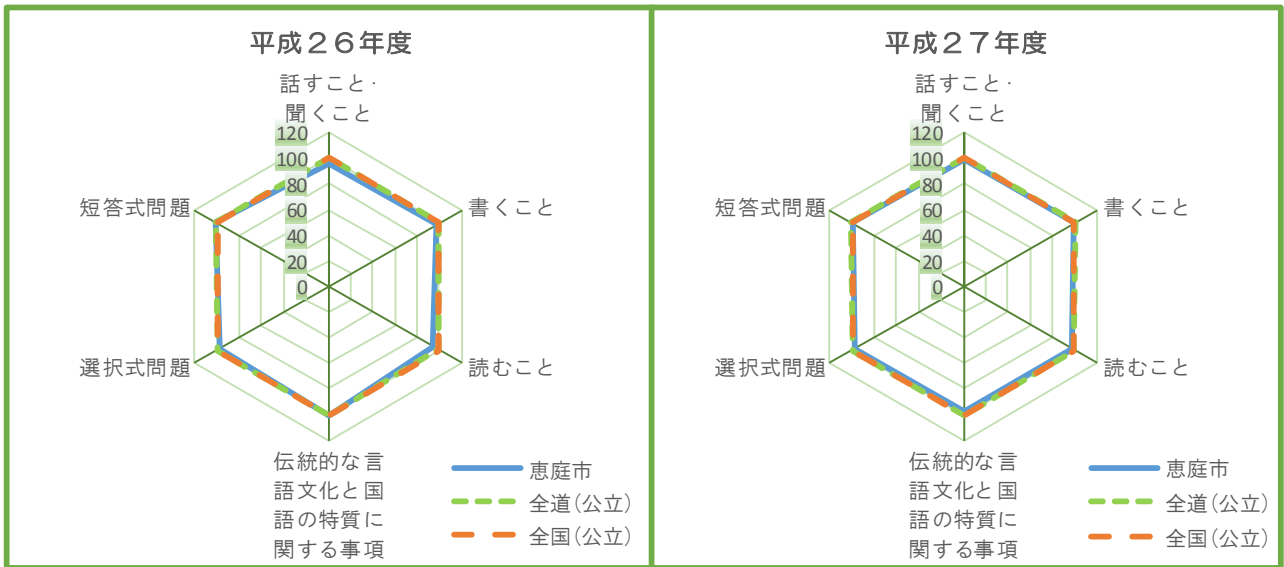
設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3%以上上回った設問</b>									
3(4)	示された器具(メスシリンダー)の名称を書く	メスシリンダーの名称を理解している	物質	短答	◎	70.7%	△	82.7%	◇
					無解答率とその比較	6.8%	10.7%	-3.9%	6.9%
3(5)	メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方を選ぶ	メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方を身に付けている	物質	選択	●	51.7%	◇	53.3%	◇
					無解答率とその比較	4.8%	2.9%	+1.9%	2.9%
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3%以上下回った設問</b>									
1(2)	振り子時計の進み方を調整する内容を選ぶ	振り子の運動の規則性を振り子時計の調整の仕方に適用できる	エネルギー	選択	●	61.2%	▼	55.9%	≡
					無解答率とその比較	0.6%	0.7%	-0.1%	0.7%
2(1)	メダカのみすとおすを見分けるための観察する部分を選ぶ	メダカの雌雄を見分ける方法を理解している	生命	選択	○	78.0%	▼	74.9%	◆
					無解答率とその比較	0.6%	0.3%	+0.3%	0.4%
2(2)	生物の成長に必要な養分のとり方について、仲間分けした観点を選ぶ【よし子さんの仲間分け】	生物の成長に必要な養分のとり方について、調べた結果を視点をもって考察して分析できる	生命	選択	○	76.3%	◆	73.6%	≡
					無解答率とその比較	1.5%	0.6%	+0.9%	0.7%
2(3)	示された器具(顕微鏡)の名称を書く	顕微鏡の名称を理解している	生命	短答	●	61.6%	▼	58.5%	◆
					無解答率とその比較	20.4%	16.1%	+4.3%	17.2%
2(4)	顕微鏡の適切な操作方法を選ぶ	顕微鏡の適切な操作方法を身に付けている	生命	選択	▪	37.9%	▼	36.2%	◆
					無解答率とその比較	2.0%	1.0%	+1.0%	1.0%
3(6)	水の温度と砂糖が水に溶ける量との関係のグラフから、水の温度が下がったときに出てくる砂糖の量を選び、選んだわけを書く	析出する砂糖の量について分析するために、グラフを基に考察し、その内容を記述できる	物質	記述	▪	28.9%	▼	24.3%	◆
					無解答率とその比較	9.7%	5.7%	+4.0%	6.4%
4(1)	方位についての情報から、観察している方位を選ぶ	方位を判断するために、観察した事実と関係付けながら情報を考察して分析できる	地球	選択	▪	41.0%	▼	36.6%	◆
					無解答率とその比較	4.8%	2.0%	+2.8%	2.4%
4(2)	夕方にみられる月の形と場所を選ぶ	月は1日のうち時刻によって形は変わらないが、位置が変わることを理解している	地球	選択	▪	56.1%	▼	52.6%	◆
					無解答率とその比較	4.7%	2.0%	+2.7%	2.4%
4(3)	星座の動きを捉えるために必要な記載事項を選ぶ	星座の動きを捉えるための適切な記録方法を身に付けている	地球	選択	●	55.3%	◆	52.0%	≡
					無解答率とその比較	4.5%	2.2%	+2.3%	2.6%
<b>★上記以外で、恵庭市の無回答率が10%以上になった設問</b>									
4(5)	水が水蒸気になる現象について、その名称を書く	水が水蒸気になる現象について、科学的な言葉や概念を理解している	地球	短答	●	58.5%	≡	56.8%	≡
					無解答率とその比較	16.8%	15.2%	+1.6%	16.1%

記号の意味 恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下  
 比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≡同様 ◆やや下回る ▼下回る

★前回到引き続き、平均正答率は達成に近いものが多く、基礎基本は定着している

- ・前回調査と比べ大きな変化はありませんが、「話すこと・聞くこと」領域などでわずかに差が縮まるなど、全国平均と同様の水準に達しています。
- ・全国平均と比べ誤答の多い設問は、漢字の書き、慣用句、敬語、ことわざ、品詞などの全般的な「言葉に関する知識」や、説明文や物語文などの読解力を問うものです。他教科でも根幹となる知識や能力が含まれていますので、日々の授業において、これらの定着を意識した指導の工夫・学習機会の充実を図ることで、更なる学力の底上げにつなげる余地があると言えます。

＊全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率（分野別レーダーチャート）

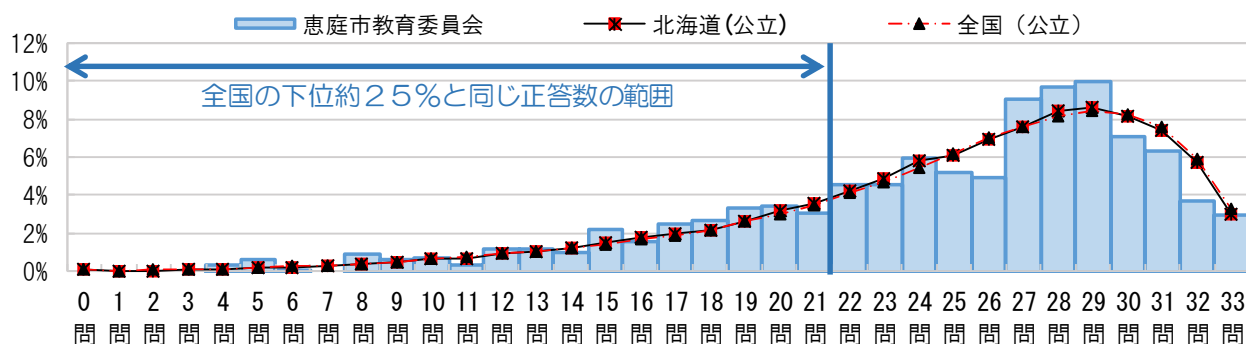


＊中学校国語A 分野別（領域・問題形式別）平均正答率（平成26年度と比較）

区分 (領域・問題形式)	前回 (平成26年度)					今回 (平成27年度)						
	恵庭市 正答率	全国(公立)		全道(公立)		恵庭市 正答率	全国(公立)			全道(公立)		
		正答率	比較	正答率	比較		正答率	比較	前回比	正答率	比較	前回比
話すこと・聞くこと	○	72.3%	◆	72.5%	◆	○	79.7%	≡	↗	79.8%	≡	↗
書くこと	◎	83.4%	≡	82.9%	≡	○	73.6%	≡	→	74.3%	≡	→
読むこと	○	82.9%	◆	82.0%	◆	◎	86.1%	◆	→	85.4%	◆	→
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項	○	78.7%	≡	79.0%	≡	○	72.9%	≡	→	72.9%	≡	→
選択式問題	◎	83.2%	◆	82.9%	≡	○	75.5%	≡	↗	75.1%	≡	→
短答式問題	○	73.1%	≡	73.5%	≡	○	76.7%	≡	→	77.4%	≡	→
記述式問題	本形式の問題なし											

記号の意味	恵庭市の平均正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下
	比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≡同様 ◆やや下回る ▼下回る
矢印の意味	前回調査と比べて結果が… ↗やや上向き →ほぼ横ばい ↘やや下向き

\*平成27年度 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：生徒全体に占める割合）



\*全国の下位約25%の生徒と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

	平成26年度			平成27年度			・( )書きは前回比。 ・「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」にある児童・生徒の数値であり、全国の数値についても丁度25%にはならない。
	恵庭市	全道(公立)	全国(公立)	恵庭市	全道(公立)	全国(公立)	
割合 (低いほど良好)	26.6%	24.0%	23.9%	25.7% (-0.9%)	23.3% (-0.7%)	23.0% (-0.9%)	
全国との差 (マイナスなほど優位)	2.7%	0.1%		2.7% (-0.0%)	0.3% (+0.2%)		

\*恵庭市における設問別結果の概要

全33問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を3%以上上回った設問	3問	話すこと・聞くこと	0 / 4問	選択式問題	1 / 23問
		書くこと	1 / 5問	短答式問題	2 / 10問
		読むこと	0 / 5問	記述式問題	/ 0問
		伝統的な言語文化...	2 / 19問		
		設問の主な内容	要望を適切に捉え、回答の冒頭に一文を加える／手紙の後付けの直し方とその理由として適切なものを選択する／古典の作品名を漢字で書く		
全国の正答率を3%以上下回った設問	10問	話すこと・聞くこと	0 / 4問	選択式問題	8 / 23問
		書くこと	1 / 5問	短答式問題	2 / 10問
		読むこと	3 / 5問	記述式問題	/ 0問
		伝統的な言語文化...	6 / 19問		
		設問の主な内容	意見文に対して出された指摘の理由として適切なものを選択する／登場人物の反応の理由として適切なものを選択する／二つの言葉の意味の変化を整理した表に当てはまる言葉として適切なものを選択する／文章について説明したものとして適切なものを選択する／漢字を書く／適切な敬語を選択する／適切な語句を選択する／「青い」と「青さ」の品詞として適切なものを選択する		
無解答率が10%以上の設問	4問	話すこと・聞くこと	1 / 4問	選択式問題	1 / 23問
		書くこと	0 / 5問	短答式問題	3 / 10問
		読むこと	0 / 5問	記述式問題	/ 0問
		伝統的な言語文化...	3 / 19問		
		設問の主な内容	「成否」という言葉を聞いて分かりやすい表現に直す／[-]漢字を書く／[+]古典の作品名を漢字で書く		

※[+]印、[-]印のついている設問は、それぞれ全国の正答率を3%以上上回った設問、下回った設問と重複するもの。



\* 主な設問別結果一覧

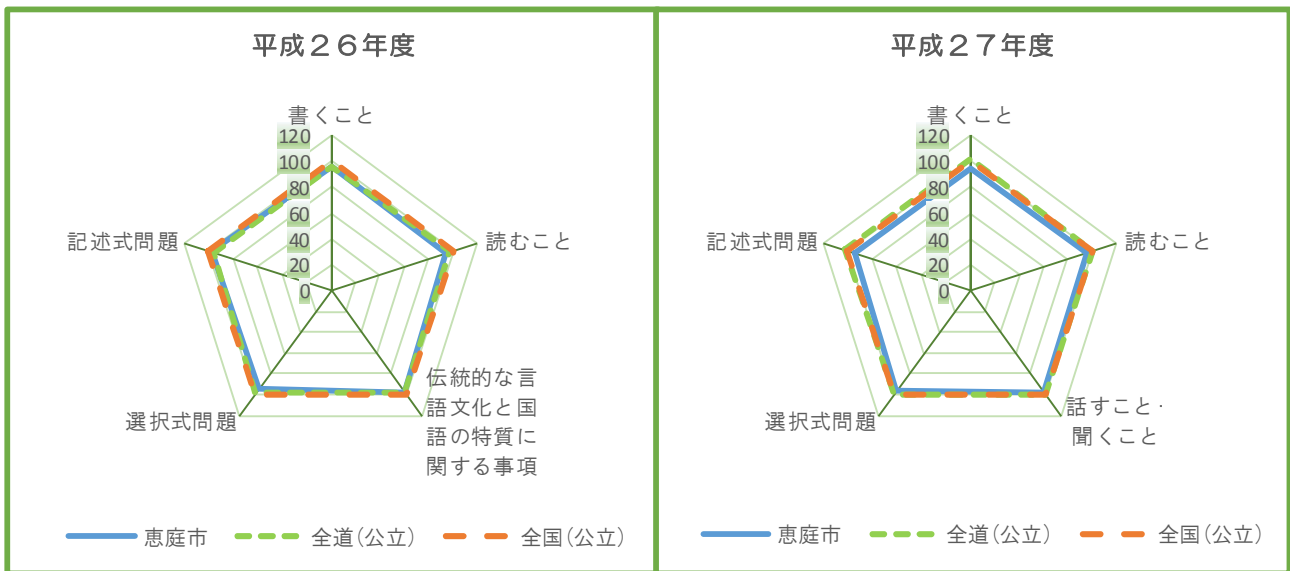
設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3%以上上回った設問</b>									
7二	要望を適切に捉え、回答の冒頭に一文を加える	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く	書くこと	短答	○	66.4%	◇	69.7%	≡
					無解答率とその比較	8.9%	8.6%	+0.3%	8.2%
9六	手紙の後付けの直し方とその理由として適切なものを選択する	手紙の書き方を理解して書く	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択	○	58.2%	△	56.4%	△
					無解答率とその比較	0.3%	1.2%	-0.9%	1.2%
9七2	古典の作品名を漢字で書く	代表的な古典の作品に関心をもつ	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	短答	○	66.7%	◇	71.1%	≡
					無解答率とその比較	10.0%	9.9%	+0.1%	8.7%
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3%以下下回った設問</b>									
2一	意見文に対して出された指摘の理由として適切なものを選択する	意見を支える根拠の明確さについて助言する	書くこと	選択	○	79.8%	◆	79.4%	◆
					無解答率とその比較	0.0%	0.2%	-0.2%	0.2%
3二	一人も返事をしたものがなかった理由として適切なものを選択する	登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する	読むこと	選択	◎	88.7%	◆	88.2%	◆
					無解答率とその比較	0.0%	0.2%	-0.2%	0.2%
6一	「あす」と「あした」という言葉の意味の変化を整理した表に当てはまる言葉として適切なものを選択する	目的に応じて要旨を捉える	読むこと	選択	○	71.3%	◆	70.0%	◆
					無解答率とその比較	0.0%	0.3%	-0.3%	0.3%
6二	文章について説明したものとして適切なものを選択する	表現の特徴を捉える	読むこと	選択	◎	87.1%	◆	86.6%	◆
					無解答率とその比較	0.3%	0.4%	-0.1%	0.4%
9一2	漢字を書く(地図のシュクシャクを調べる)	文脈に即して漢字を正しく書く	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	短答	○	72.1%	◆	73.5%	▼
					無解答率とその比較	11.2%	10.1%	+1.1%	9.5%
9一3	漢字を書く(アマったお金を貯金する)		伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	短答	○	70.9%	▼	67.4%	▼
					無解答率とその比較	23.2%	15.9%	+7.3%	18.6%
9三ウ	適切な敬語を選択する(私が先生のお宅に参ります)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択	○	84.1%	◆	82.8%	◆
					無解答率とその比較	0.4%	0.7%	-0.3%	0.6%
9三エ	適切な語句を選択する(彼女は、学級の縁の下の力持ちと言える存在だ)		伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択	○	70.8%	▼	66.2%	◆
					無解答率とその比較	0.6%	0.8%	-0.2%	0.7%
9四①	「青い」と「青さ」の品詞として適切なものを選択する	単語の類別について理解する	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択	●	62.3%	▼	58.8%	▼
					無解答率とその比較	0.3%	0.9%	-0.6%	0.9%
9四②			伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択	▪	33.7%	◆	32.7%	◆
					無解答率とその比較	0.6%	1.1%	-0.5%	1.0%
<b>★上記以外で、恵庭市の無回答率が10%以上になった設問</b>									
1二	「成否」という言葉を、聞いて分かりやすい表現に直す	聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話す	話すこと・聞くこと	短答	○	65.0%	≡	65.3%	≡
					無解答率とその比較	13.4%	12.0%	+1.4%	12.6%

記号の意味 恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下  
 比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≡同様 ◆やや下回る ▼下回る

★平均正答率は全国平均をやや下回るが、5%以上の大きな差はなく推移

- ・「選択式問題」を除いて、前回調査よりわずかに全国平均との正答率の差が拡大していますが、結果が大きく下回っている領域はありません。
- ・全国・全道と比べ、ボリュームのある文章の中から適切に要旨・意図をうまく捉えられないことが原因の誤答が多いです。加えて、「記述式問題」では、自分の言葉や考えを根拠と共に書くことを苦手にする傾向が見られました。多様な文章に触れる中で、「気づき」と「問題意識」を生徒自身が膨らませるような指導の工夫が一層必要と考えられます。

\*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率(分野別レーダーチャート)

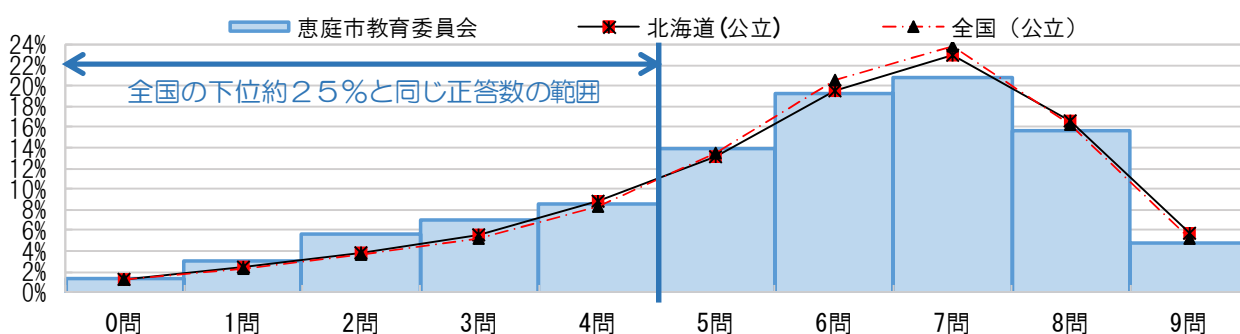


\*中学校国語B 分野別(領域・問題形式別)平均正答率(平成26年度と比較)

区分 (領域・問題形式)	前回(平成26年度)				今回(平成27年度)							
	恵庭市 正答率	全国(公立)		全道(公立)		恵庭市 正答率	全国(公立)		全道(公立)			
		正答率	比較	正答率	比較		正答率	比較	前回比	正答率	比較	前回比
話すこと・聞くこと	本形式の問題なし				○	72.2%	≡	—	72.6%	≡	—	
書くこと	■	41.0%	≡	39.2%	≡	■	36.7%	◆	↘	37.5%	◆	↘
読むこと	■	49.2%	◆	47.9%	≡	●	62.6%	◆	→	62.3%	◆	↘
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項	●	56.8%	≡	55.3%	≡	本形式の問題なし						
選択式問題	●	55.9%	◆	55.3%	◆	○	80.3%	◆	→	79.8%	◆	→
短答式問題	本形式の問題なし											
記述式問題	■	41.0%	≡	39.2%	≡	■	36.7%	◆	↘	37.5%	◆	↘

記号の意味	恵庭市の平均正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下	
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡同様	◆やや下回る	▼下回る
矢印の意味	前回調査と比べて結果が…	↗やや上向き	→ほぼ横ばい	↘やや下向き		

\*平成27年度 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：生徒全体に占める割合）



\*全国の下位約25%の生徒と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

	平成26年度			平成27年度			・()書きは前回比。 ・「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」にある児童・生徒の数値であり、全国の数値についても丁度25%にはならない。
	恵庭市	全道(公立)	全国(公立)	恵庭市	全道(公立)	全国(公立)	
割合 (低いほど良好)	<b>23.4%</b>	23.1%	21.5%	<b>25.6%</b> (+2.2%)	21.9% (-1.2%)	20.7% (-0.8%)	
全国との差 (マイナスほど優位)	<b>1.9%</b>	1.6%		<b>4.9%</b> (+3.0%)	1.2% (-0.4%)		

\*恵庭市における設問別結果の概要

全9問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を3%以上上回った設問	なし				
全国の正答率を3%以上下回った設問	4問	話すこと・聞くこと	0 / 3問	選択式問題	4 / 6問
		書くこと	0 / 3問	短答式問題	/ 0問
		読むこと	4 / 6問	記述式問題	0 / 3問
		伝統的な言語文化...	/ 0問	※領域の重複する設問がある。	
		設問の主な内容	ウェブページの文章の内容について述べた文の空欄に当てはまる言葉として適当なものを選択する／雑誌の記事に書かれていることとして適切なものを選択する／日本語訳の表現の効果として適切なものを選択する／物語文の一場面についての説明として適切なものを選択する		
無解答率が10%以上の設問	1問	話すこと・聞くこと	0 / 3問	選択式問題	0 / 6問
		書くこと	1 / 3問	短答式問題	/ 0問
		読むこと	1 / 6問	記述式問題	1 / 3問
		伝統的な言語文化...	/ 0問	※領域の重複する設問がある。	
		設問の主な内容	物語の最後の一文があったほうがよいかについて、話の展開を取り上げて自分の考えを書く		

※[+]印、[-]印のついている設問は、それぞれ全国の正答率を3%以上上回った設問、下回った設問と重複するもの。

\*主な設問別結果一覧

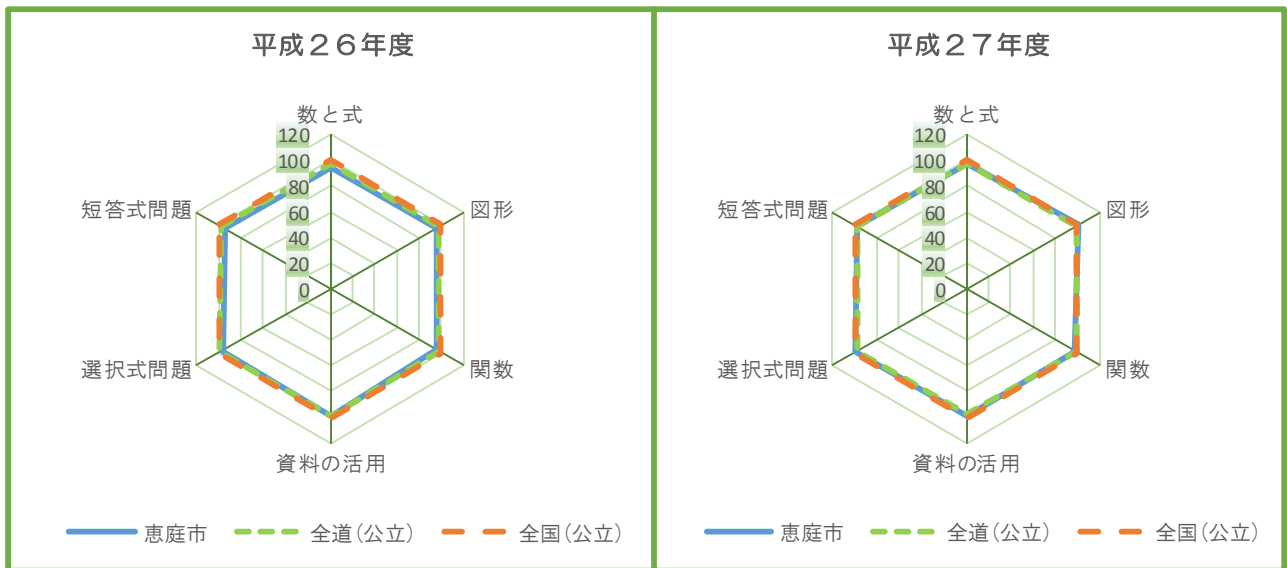
設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3%以上下回った設問</b>									
2一	ウェブページの文章の内容について述べた文の空欄に当てはまる言葉として適切なものを選択する	目的に応じて文章を要約する	読むこと	選択	○	82.6%	◆	80.9%	≡
					無解答率とその比較	0.0%	0.3%	-0.3%	0.3%
2二	雑誌の記事に書かれていることとして適切なものを選択する	文章の中心的な部分と付加的な部分などを読み分け、要旨を捉える	読むこと	選択	○	67.8%	▼	66.5%	◆
					無解答率とその比較	0.1%	0.3%	-0.2%	0.3%
3一	「お泣きなさるな」という翻訳の効果として適切なものを選択する	表現の工夫について自分の考えをもつ	読むこと	選択	◎	88.6%	◆	88.1%	◆
					無解答率とその比較	0.4%	0.5%	-0.1%	0.5%
3二	「あたりは……良かった。」の説明として適切なものを選択する	表現の工夫について自分の考えをもつ	読むこと	選択	○	82.6%	◆	81.4%	≡
					無解答率とその比較	0.3%	0.7%	-0.4%	0.6%
<b>★上記以外で、恵庭市の無回答率が10%以上になった設問</b>									
3三	文章の最後の一文があった方がよいかどうかについて、話の展開を取り上げて自分の考えを書く	文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く	書くこと、読むこと	記述	■	31.1%	◆	33.3%	◆
					無解答率とその比較	15.8%	11.2%	+4.6%	15.7%
記号の意味	恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下 比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≡同様 ◆やや下回る ▼下回る								



★ほぼ全ての区分で全国平均との差が縮小、基礎基本の定着が進む

- ・「資料の活用」以外で全国平均との正答率のポイント差が改善した結果、全般的に全国と同様の水準となりました。「図形」ではごくわずかですが全国平均より上位です。基礎基本的な学力の底上げがされた結果と思われます。
- ・文字式の計算、空間上の直線と平面の関係、錐体の体積の求め方、証明（演繹的な推論）の意味、比例・反比例のグラフの特徴や座標の求め方、中央値の意味等、個別の学習事項に苦手傾向が見られ、丁寧な振り返りにより更なる定着を目指す必要があります。具体的状況を捉えて数式を作ったり、図形の条件を読み取る等の発展的な力の身に付けにも課題があります。

\*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率（分野別レーダーチャート）

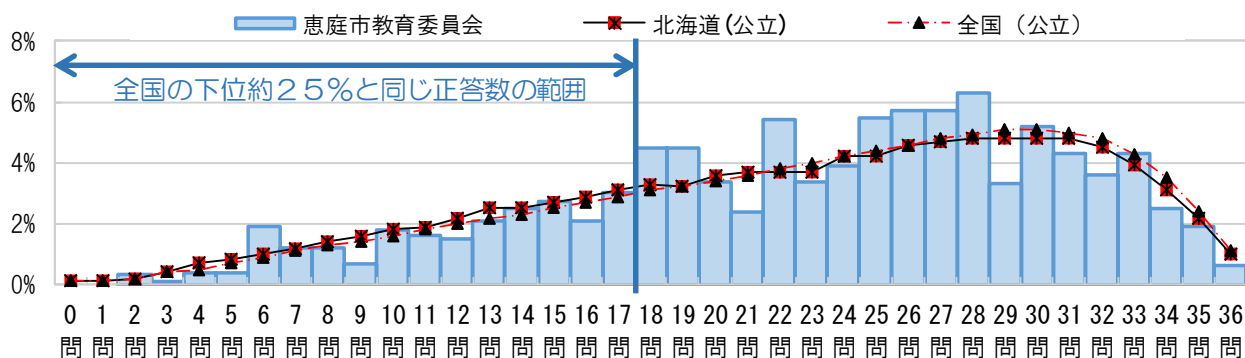


\*中学校数学A 分野別（領域・問題形式別）平均正答率（平成26年度と比較）

区分 (領域・問題形式)	前回（平成26年度）				今回（平成27年度）							
	恵庭市 正答率	全国(公立)		全道(公立)		恵庭市 正答率	全国(公立)			全道(公立)		
		正答率	比較	正答率	比較		正答率	比較	前回比	正答率	比較	前回比
数と式	○	77.4%	◆	75.7%	◆	○	67.7%	≡	↗	65.6%	≡	↗
図形	○	66.4%	◆	65.1%	≡	○	63.4%	≡	↗	62.5%	≡	→
関数	●	58.0%	◆	56.9%	≡	○	61.7%	≡	↗	60.9%	≡	→
資料の活用	●	59.1%	≡	58.3%	≡	○	63.0%	≡	→	61.1%	≡	→
選択式問題	○	64.4%	◆	63.6%	≡	○	64.6%	≡	↗	63.5%	≡	→
短答式問題	○	70.4%	◆	68.5%	◆	○	64.2%	≡	↗	62.4%	≡	↗
記述式問題		本形式の問題なし										

記号の意味	恵庭市の平均正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下	
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡同様	◆やや下回る	▼下回る
矢印の意味	前回調査と比べて結果が…	↗やや上向き	→ほぼ横ばい	↘やや下向き		

\*平成27年度 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：生徒全体に占める割合）



\*全国の下位約25%の生徒と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

	平成26年度			平成27年度			・( )書きは前回比。 ・「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」にある児童・生徒の数値であり、全国の数値についても丁度25%にはならない。
	恵庭市	全道(公立)	全国(公立)	恵庭市	全道(公立)	全国(公立)	
割合 (低いほど良好)	<b>27.6%</b>	26.6%	24.2%	<b>23.5%</b> (-4.1%)	27.1% (+0.5%)	24.7% (+0.5%)	
全国との差 (マイナスなほど優位)	<b>3.4%</b>	2.4%		<b>-1.2%</b> (-4.6%)	2.4% (+0.0%)		

\*恵庭市における設問別結果の概要

全36問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を 3%以上上回った設問	1問	数と式	0 / 12問	選択式問題	0 / 19問
		図形	1 / 12問	短答式問題	1 / 17問
		関数	0 / 8問	記述式問題	/ 0問
		資料の活用	0 / 4問		
	設問の主な内容	証明で用いられている三角形の合同条件を書く			
全国の正答率を 3%以上下回った設問	8問	数と式	2 / 12問	選択式問題	5 / 19問
		図形	3 / 12問	短答式問題	3 / 17問
		関数	3 / 8問	記述式問題	/ 0問
		資料の活用	0 / 4問		
	設問の主な内容	一次式の減法を計算する／連続する3つの整数のうち最も小さい整数をnとすると、それらの和が中央の整数の3倍になることをnを用いた式で表す／ある式で体積が求められる立体を全て選ぶ／四角形を五角形に変えたときの内角の和の変化について正しい記述を選ぶ／ある方法で作図された四角形がいつでも平行四辺形になることの根拠となる事柄を選ぶ／反比例のグラフを選ぶ／ある比例の式について、そのグラフ上の点のx座標を基にy座標を求める／ある二元一次方程式の解を座標とする点の集合として正しいものを選ぶ			
無解答率が 10%以上の設問	4問	数と式	0 / 12問	選択式問題	0 / 19問
		図形	0 / 12問	短答式問題	4 / 17問
		関数	2 / 8問	記述式問題	/ 0問
		資料の活用	2 / 4問		
	設問の主な内容	[-]反比例のグラフを選ぶ／比例のグラフから、xの変域に対応するyの変域を求める／反復横とびの記録の中央値を求める／度数分布表について、ある階級の度数を求める			

※[+]印、[-]印のついている設問は、それぞれ全国の正答率を3%以上上回った設問、下回った設問と重複するもの。

\* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3%以上上回った設問</b>									
7(2)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	図形	短答	◎	76.1%	△	76.3%	△
					無解答率とその比較	4.8%	6.8%	-2.0%	7.0%
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3%以上下回った設問</b>									
2(1)	$5x-x$ を計算する	一次式の減法の計算ができる	数と式	短答	○	85.3%	▼	81.1%	◆
					無解答率とその比較	1.5%	1.6%	-0.1%	1.8%
2(4)	連続する3つの整数のうち最も小さい整数を $n$ とするとき、それらの和が中央の整数の3倍になることを、 $n$ を用いた式で表す	文字を用いた式で数量の関係を説明するための構想を理解している	数と式	短答	●	57.0%	◆	53.3%	≡
					無解答率とその比較	7.9%	7.9%	0.0%	9.3%
5(4)	与えられた式で体積が求められる立体を全て選ぶ	与えられた式を用いて体積を求めることができる立体を理解している	図形	選択	●	56.4%	◆	54.1%	◆
					無解答率とその比較	1.8%	1.4%	+0.4%	1.7%
6(2)	四角形を五角形に変えたときの、内角の和の変化について正しい記述を選ぶ	多角形の内角の和の性質を理解している	図形	選択	○	69.7%	◆	67.8%	≡
					無解答率とその比較	0.6%	0.9%	-0.3%	1.0%
7(3)	与えられた方法で作図された四角形が、いつでも平行四辺形になることの根拠となる事柄を選ぶ	作図の根拠として用いられている平行四辺形になるための条件を理解している	図形	選択	▪	48.1%	◆	47.0%	◆
					無解答率とその比較	0.3%	0.9%	-0.6%	1.1%
10(1)	反比例のグラフを選ぶ	反比例のグラフが $x$ 軸、 $y$ 軸に限りなく近づく2つのなめらかな曲線であることを理解している	関数	選択	●	61.7%	◆	60.7%	◆
					無解答率とその比較	1.0%	1.2%	-0.2%	1.3%
10(2)	比例 $y=2x$ のグラフ上の点Aの $x$ 座標が3のときの $y$ 座標を求める	与えられた比例の式について、そのグラフ上の点の $x$ 座標を基に $y$ 座標を求めることができる	関数	短答	●	64.9%	▼	62.1%	◆
					無解答率とその比較	11.5%	9.8%	+1.7%	11.2%
13	二元一次方程式 $x+y=3$ の解を座標とする点の集合として正しいものを選ぶ	二元一次方程式の解を座標とする点の集合は、直線として表されることを理解している	関数	選択	▪	37.9%	▼	37.8%	▼
					無解答率とその比較	1.6%	2.3%	-0.7%	2.4%
<b>★上記以外で、恵庭市の無回答率が10%以上になった設問</b>									
10(3)	比例のグラフから、 $x$ の変域に対応する $y$ の変域を求める	与えられた比例のグラフから、 $x$ の変域に対応する $y$ の変域を求めることができる	関数	短答	▪	49.3%	≡	48.5%	≡
					無解答率とその比較	19.2%	17.2%	+2.0%	19.1%
14(1)	反復横とびの記録の中央値を求める	与えられた資料から中央値を求めることができる	資料の活用	短答	▪	46.0%	◆	44.4%	≡
					無解答率とその比較	11.5%	9.7%	+1.8%	10.3%
14(2)	度数分布表について、ある階級の度数を求める	与えられた資料の度数分布表について、ある階級の度数を求めることができる	資料の活用	短答	○	75.9%	◆	73.5%	≡
					無解答率とその比較	10.9%	9.4%	+1.5%	11.0%

記号の意味 恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下  
 比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≡同様 ◆やや下回る ▼下回る

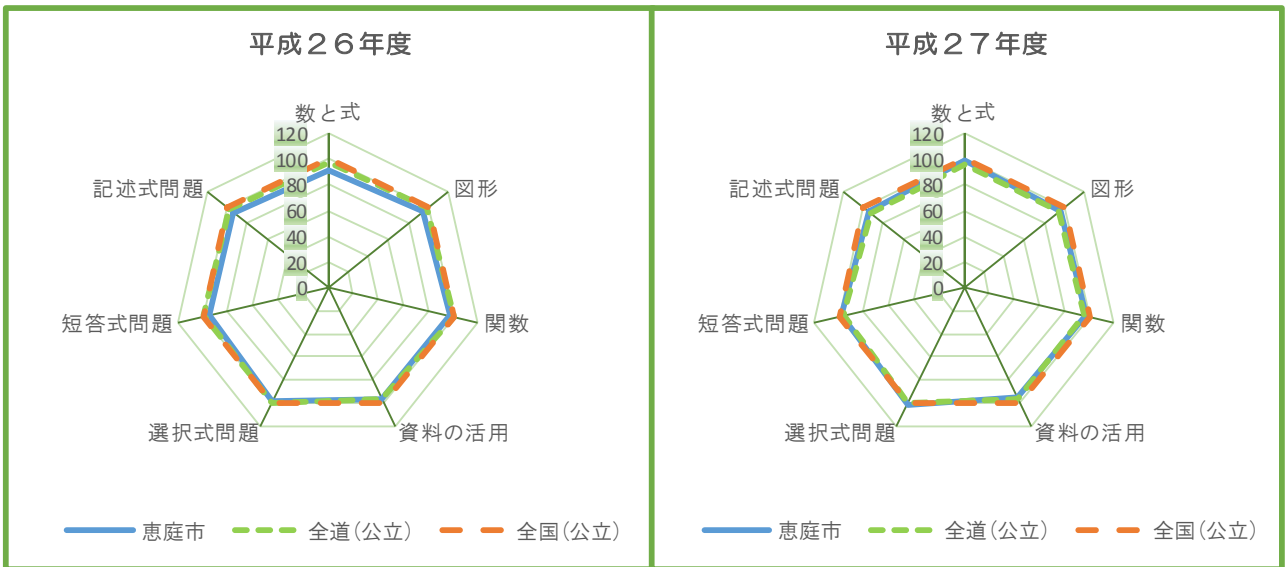
⑨ 中学校 数学 B (主として「活用」に関する問題)

解答時間45分・設問数15問

★大半の区分で全国平均との差が縮小し、ほぼ同様の水準に

- 数学 A と同様、「資料の活用」以外で全国平均との正答率のポイント差が改善した結果、全国的に全国と同様の水準となりました。数学全体において学力の底上げが図られた結果が表れていると思われます。
- 全国や全道と同様、数学の活用全般に課題が見られます。日常的な事象や資料を数学的な見方で読み解き、目的に応じて適切な数式や数学的な考え方で比較・説明する力や、分かっていることを新しい問題に応用する力などを高める必要があります。日頃から、「観察・構想・表現・話し合い」までの学習経験を、丁寧な振り返りと共に豊富に設けることが大切です。

\* 全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率 (分野別レーダーチャート)



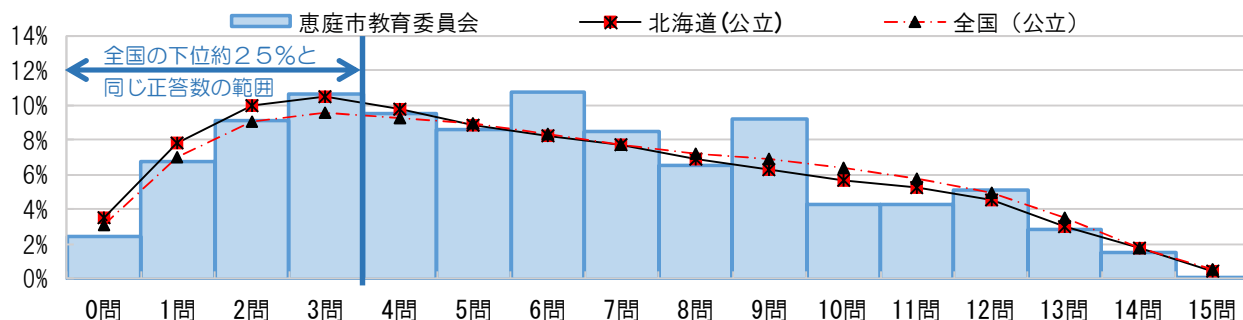
\* 中学校数学 B 分野別 (領域・問題形式別) 平均正答率 (平成26年度と比較)

区分 (領域・問題形式)	前回 (平成26年度)						今回 (平成27年度)					
	恵庭市 正答率	全国(公立)		全道(公立)		恵庭市 正答率	全国(公立)		全道(公立)			
		正答率	比較	正答率	比較		正答率	比較	前回比	正答率	比較	前回比
数と式	●	56.9%	◆	55.4%	◆	○	63.2%	≡	↑	60.2%	◇	↑
図形	●	58.6%	◆	58.2%	◆	■	39.0%	≡	↑	37.1%	≡	↑
関数	○	64.4%	≡	65.0%	≡	■	30.7%	≡	→	29.3%	≡	→
資料の活用	●	55.9%	≡	54.1%	≡	■	31.2%	≡	→	30.2%	≡	→
選択式問題	◎	83.2%	≡	83.5%	≡	■	47.9%	≡	→	47.5%	≡	→
短答式問題	○	63.3%	◆	62.8%	◆	■	47.4%	≡	↑	45.7%	≡	↑
記述式問題	■	44.8%	◆	43.8%	≡	■	34.8%	◆	→	31.9%	≡	→

記号の意味	恵庭市の平均正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ◻49%以下
	比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≡同様 ◆やや下回る ▼下回る
矢印の意味	前回調査と比べて結果が… ↑ やや上向き → ほぼ横ばい ↘ やや下向き



\*平成27年度 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：生徒全体に占める割合）



\*全国の下位約25%の生徒と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

	平成26年度			平成27年度			・()書きは前回比。 ・「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」にある児童・生徒の数値であり、全国の数値についても丁度25%にはならない。
	Hitachi City	全道(公立)	全国(公立)	Hitachi City	全道(公立)	全国(公立)	
割合 (低いほど良好)	30.3%	28.7%	27.5%	28.8% (-1.5%)	31.8% (+3.1%)	28.8% (+1.3%)	
全国との差 (マイナスなほど優位)	2.8%	1.2%		0.0% (-2.8%)	3.0% (+1.8%)		

\*Hitachi Cityにおける設問別結果の概要

全15問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を3%以上上回った設問	1問	数と式	0 / 4問	選択式問題	1 / 4問
		図形	0 / 4問	短答式問題	0 / 4問
		関数	1 / 5問	記述式問題	0 / 7問
		資料の活用	0 / 2問		
	設問の主な内容	投影画面がスクリーンに収まり、できるだけ大きく映し出すことができる投影距離を選ぶ			
全国の正答率を3%以上下回った設問	4問	数と式	0 / 4問	選択式問題	1 / 4問
		図形	2 / 4問	短答式問題	0 / 4問
		関数	2 / 5問	記述式問題	3 / 7問
		資料の活用	0 / 2問		
	設問の主な内容	ある四角形がいつでも平行四辺形になるように点の位置を決める方法を、平行四辺形になるための条件を用いて説明する/証明で用いた三角形の合同を根拠として、証明したこと以外に新たに分かることを選ぶ/映像の明るさを2倍にするための投影画面の面積の変え方を選び、その理由を説明する/与えられた表や式を用いて、底面になる円の半径の長さに応じたおうぎ形の中心角の大きさを求める方法を説明する			
無解答率が10%以上の設問	8問	数と式	2 / 4問	選択式問題	0 / 4問
		図形	2 / 4問	短答式問題	2 / 4問
		関数	2 / 5問	記述式問題	6 / 7問
		資料の活用	2 / 2問		
	設問の主な内容	連続する3つの整数の和が中央の整数の3倍になることの説明を完成する/連続する5つの整数の和について成り立つ事柄を表現する/[-]ある四角形がいつでも平行四辺形になるように点の位置を決める方法を、平行四辺形になるための条件を用いて説明する/ある正方形を平行四辺形に変えても、特定の2辺が等しくなることの証明を完成する/投影距離と投影画面の高さの関係を式で表す/[-]与えられた表や式を用いて、底面になる円の半径の長さに応じたおうぎ形の中心角の大きさを求める方法を説明する/落し物の1回目の調査結果から、合計のうちある種の落し物の占める割合を求める式を答える/落し物の2回目の調査結果のほうがり況が良くなったとは言いきれないと主張できる理由を、グラフを基に説明する			

※[+]印、[-]印のついている設問は、それぞれ全国の正答率を3%以上上回った設問、下回った設問と重複するもの。

\* 主な設問別結果一覧

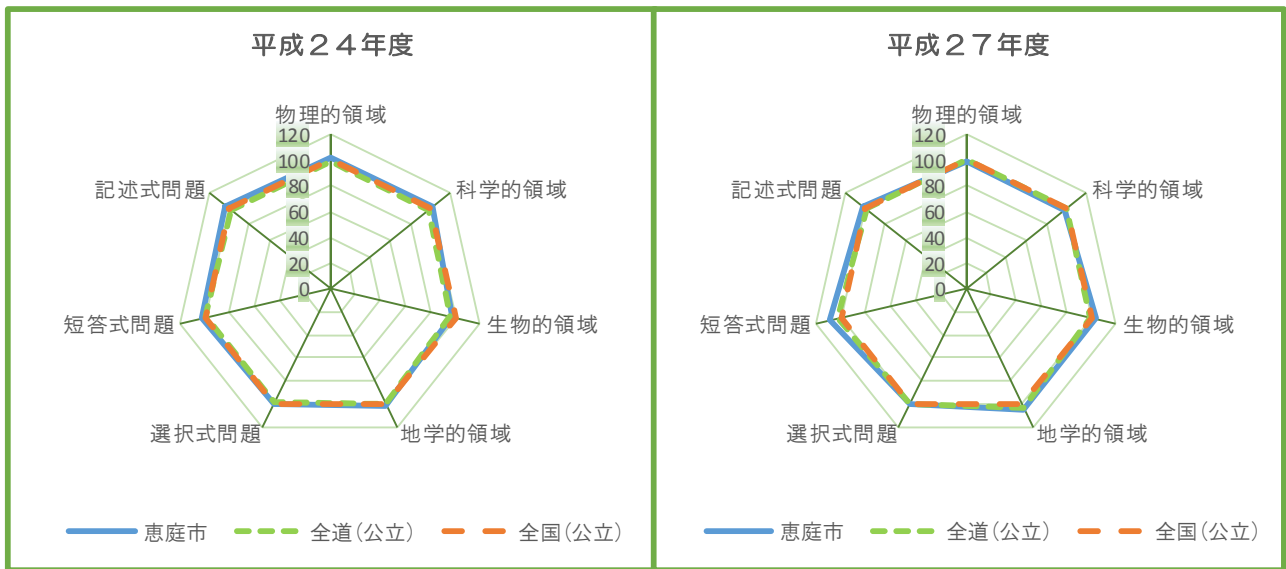
設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3%以上上回った設問									
1(2)	投映画面がスクリーンに収まり、できるだけ大きく映し出すことができる投映距離を選ぶ	必要な情報を選択して的確に処理し、その結果を事象に即して解釈することができる	関数	選択	■	35.1%	◇	35.8%	◇
						無解答率とその比較	0.6%	0.9%	-0.3%
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3%以上下回った設問									
1(3)	映像の明るさを2倍にするための投映画面の面積の変え方を選び、その理由を説明する	事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明することができる	関数	記述	■	11.7%	◆	9.1%	≡
						無解答率とその比較	7.1%	5.6%	+1.5%
3(2)	四角形EFGHがいつでも平行四辺形になるように点Fの位置を決める方法を、平行四辺形になるための条件を用いて説明する	図形に着目して考察した結果を基に、問題解決の方法を図形の性質を用いて説明することができる	図形	記述	■	21.2%	◆	19.2%	≡
						無解答率とその比較	55.4%	48.2%	+7.2%
4(1)	証明で用いた三角形の合同を根拠として、証明したこと以外に新たにわかることを選ぶ	証明を振り返り、新たな性質を見いだすことができる	図形	選択	■	42.5%	◆	41.7%	◆
						無解答率とその比較	0.9%	1.2%	-0.3%
6(2)	底面になる円の半径の長さが8cm のとき、表や式から、側面になるおうぎ形の中心角の大きさを求める方法を説明する	与えられた表や式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することができる	関数	記述	■	30.8%	◆	27.1%	≡
						無解答率とその比較	22.5%	17.1%	+5.4%
★上記以外で、恵庭市の無回答率が10%以上になった設問									
1(1)	投映距離と投映画面の高さの関係を式で表す	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる	関数	短答	■	29.3%	≡	26.9%	≡
						無解答率とその比較	20.2%	21.1%	-0.9%
2(2)	連続する3つの整数の和が中央の整数の3倍になることの説明を完成する	事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる	数と式	記述	■	43.1%	≡	39.9%	≡
						無解答率とその比較	26.8%	24.0%	+2.8%
2(3)	連続する5つの整数の和について成り立つ事柄を表現する	発展的に考え、予想した事柄を説明することができる	数と式	記述	○	63.8%	≡	60.5%	◇
						無解答率とその比較	20.7%	19.4%	+1.3%
4(2)	正方形ABCDを平行四辺形ABCDに変えても、AE=CFとなることの証明を完成する	発展的に考え、条件を変えた場合について証明することができる	図形	記述	■	49.6%	≡	46.3%	◇
						無解答率とその比較	19.2%	18.6%	+0.6%
5(1)	1回目の調査で、落とし物の合計のうち、文房具の占める割合を求める式を答える	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる	資料の活用	短答	■	39.1%	≡	39.4%	≡
						無解答率とその比較	26.3%	26.8%	-0.5%
5(2)	2回目の調査の方が落とし物の状況がよくなったとは言いきれないと主張することもできる理由を、グラフを基に説明する	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	資料の活用	記述	■	23.3%	◆	20.9%	≡
						無解答率とその比較	32.0%	29.7%	+2.3%

記号の意味 恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下  
比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≡同様 ◆やや下回る ▼下回る

★「生物的領域」「地学的領域」で全国平均を上回る水準に

- ・化学式、天気図の読み方、物質の名称等、基礎的な学習内容はおおむね解答できていました。
- ・「日常的な事象・事物の変化に科学的な考え方で着目し、要因や規則性を予想すること」、「予想を確かめるために、どのような条件をどのように変えたり比較したりして実験・観察すべきか整理すること」、「結果から、予想に対し考察できることをまとめること」といった、主体的に問題を解決する力が求められる問題で広く苦手傾向が見られます。身近な学習テーマについて、解決までの一つ一つの過程を丁寧に確認しながら進めたり、グループで話し合って理解を深める機会の充実等を通して、探求の意欲と能力を育てていく必要があります。

\* 全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率（分野別レーダーチャート）

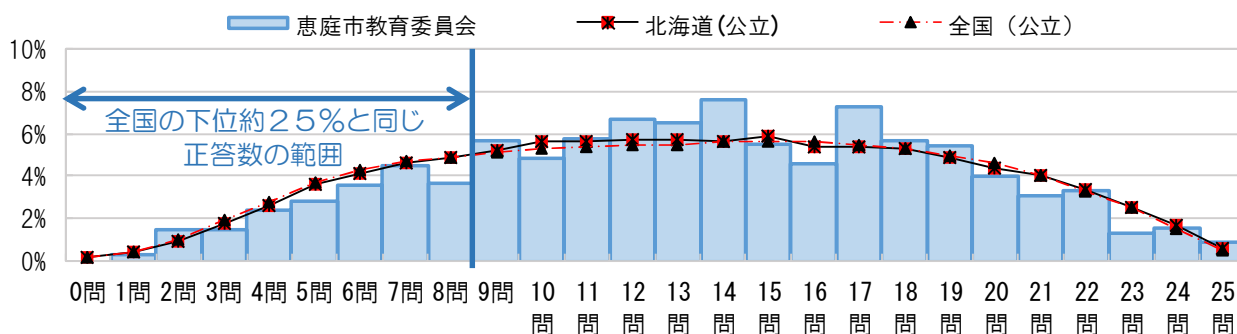


\* 中学校理科 分野別（領域・問題形式別）平均正答率（平成24年度と比較）

区分 (領域・問題形式)	前回（平成24年度）						今回（平成27年度）					
	恵庭市 正答率	全国(公立)		全道(公立)		恵庭市 正答率	全国(公立)			全道(公立)		
		正答率	比較	正答率	比較		正答率	比較	前回比	正答率	比較	前回比
物理的領域	■	45.9%	≡	45.3%	≡	■	48.9%	≡	→	49.3%	≡	→
化学的領域	●	56.9%	≡	56.3%	◇	●	56.2%	≡	→	55.9%	≡	↘
生物的領域	■	50.7%	≡	48.7%	≡	○	62.2%	◇	↗	62.1%	◇	↗
地学的領域	●	52.0%	≡	52.3%	≡	■	46.4%	◇	↗	47.7%	≡	→
選択式問題	○	60.3%	≡	59.5%	≡	●	53.1%	≡	→	53.3%	≡	→
短答式問題	●	49.0%	≡	48.3%	◇	○	61.6%	△	↗	63.1%	◇	→
記述式問題	■	32.1%	≡	31.7%	≡	■	45.8%	≡	→	45.4%	≡	→

記号の意味	恵庭市の平均正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下	
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡同様	◆やや下回る	▼下回る
矢印の意味	前回調査と比べて結果が…	↗やや上向き	→ほぼ横ばい	↘やや下向き		

\*平成27年度 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：生徒全体に占める割合）



\*全国の下位約25%の生徒と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

	平成24年度			平成27年度			・()書きは前回比。 ・「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」にある児童・生徒の数値であり、全国の数値についても丁度25%にはならない。
	恵庭市	全道(公立)	全国(公立)	恵庭市	全道(公立)	全国(公立)	
割合 (低いほど良好)	22.1%	27.7%	26.6%	20.3% (-1.8%)	23.1% (-4.6%)	23.9% (-2.7%)	
全国との差 (マイナスなほど優位)	-4.5%	1.1%		-3.6% (+0.9%)	-0.8% (-1.9%)		

\*恵庭市における設問別結果の概要

全25問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を3%以上上回った設問	7問	物理的領域	1 / 7問	選択式問題	4 / 16問
		化学的領域	1 / 7問	短答式問題	3 / 4問
		生物的領域	2 / 6問	記述式問題	0 / 5問
		地学的領域	3 / 6問		
		設問の主な内容	抵抗に加わる電圧と流れる電流から、抵抗の大きさを計算して求める／塩化ナトリウムの化学式を選ぶ／消化酵素によってデンプンが最終的に分解された物質の名称を選ぶ／背骨のある動物の名称を答える／天気図から風力を読み取る／天気図から読み取れる風向を示している風向計を選ぶ／気象観測の記録から、最も高い湿度の時刻を選ぶ		
全国の正答率を3%以上下回った設問	6問	物理的領域	1 / 7問	選択式問題	6 / 16問
		化学的領域	4 / 7問	短答式問題	0 / 4問
		生物的領域	1 / 6問	記述式問題	0 / 5問
		地学的領域	0 / 6問		
		設問の主な内容	実験の結果から、凸レンズによってできる実像の位置や大きさについて適切な説明を選ぶ／同じ量の水に同じ量の炭酸水素ナトリウムと硫酸ナトリウムをそれぞれ加えた実験の結果から、どちらが炭酸水素ナトリウムであるかを選ぶ／質量の変化のグラフから、温度と化学変化の記述として適切なものを選ぶ／ベーキングパウダーの材料で気体の発生に関与しているのが炭酸水素ナトリウムであると特定するための対照実験を選ぶ／他者の考えを検討して改善し、混合物を加熱したときの化学変化の説明として最も適切なものを選ぶ／キウイフルーツがゼラチンや観点を分解する働きを説明した記述として適切なものを選ぶ		
無解答率が10%以上の設問	6問	物理的領域	2 / 7問	選択式問題	0 / 16問
		化学的領域	2 / 7問	短答式問題	2 / 4問
		生物的領域	2 / 6問	記述式問題	4 / 5問
		地学的領域	0 / 6問		
		設問の主な内容	[+]抵抗に加わる電圧と流れる電流から、抵抗の大きさを計算して求める／電磁石のスイッチの入り切りにより検流計の針が振れる理由を説明する／特定の質量パーセント濃度及び質量の塩化ナトリウム水溶液をつくる時に必要な塩化ナトリウムと水の質量を求める／水上置換法では二酸化炭素の体積を正確に量れない理由を説明する／キウイフルーツの上に置いたゼリーの崩れ方に違いが見られたという新たな問題から、適切な課題を設定する／他者の考察を、課題に対して適切な考察になるよう修正する		

※[+]印、[-]印のついている設問は、それぞれ全国の正答率を3%以上上回った設問、下回った設問と重複するもの。

\* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3%以上上回った設問【上位4問抜粋】</b>									
1(1)	塩化ナトリウムの化学式を選ぶ	塩化ナトリウムを化学式で表すことができる	化学的領域	選択	◎	79.6%	△	80.3%	◇
			無解答率とその比較		0.0%	0.3%	-0.3%	0.3%	-0.3%
5(1)	抵抗に加わる電圧と流れる電流から、抵抗の大きさを計算して求める	オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができる	物理的領域	短答	○	59.6%	△	61.6%	△
			無解答率とその比較		13.5%	15.6%	-2.1%	16.0%	-2.5%
7(1)	消化酵素によって、デンプンが最終的に分解された物質の名称を選ぶ	デンプンが消化酵素によって分解されて、最終的にできる物質の名称を表すことができる	生物的領域	選択	◎	72.2%	△	75.3%	△
			無解答率とその比較		0.3%	0.9%	-0.6%	0.8%	-0.5%
8(1)	背骨のある動物の名称を答える	背骨のある動物を、セキツイ動物と表すことができる	生物的領域	短答	○	63.9%	△	65.0%	△
			無解答率とその比較		7.4%	10.4%	-3.0%	9.2%	-1.8%
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3%以下下回った設問【下位4問抜粋】</b>									
1(2)	同じ量の水に同じ量の炭酸水素ナトリウムと硫酸ナトリウムをそれぞれ加えたとき、どちらが炭酸水素ナトリウムであるかを選ぶ	実験の結果を分析して解釈し、炭酸水素ナトリウムを溶かした方の試験管を指摘することができる	化学的領域	選択	▪	32.6%	◆	32.2%	◆
			無解答率とその比較		0.1%	0.3%	-0.2%	0.3%	-0.2%
1(5)	ベーキングパウダーの原材料で、気体の発生に関係しているのが、炭酸水素ナトリウムであることを特定するための対照実験を選ぶ	炭酸水素ナトリウムが二酸化炭素の発生に関係することを特定する対照実験を計画することができる	化学的領域	選択	▪	51.7%	◆	49.9%	◆
			無解答率とその比較		0.1%	0.8%	-0.7%	0.7%	-0.6%
4(1)	実験の結果から、凸レンズによる実像ができるときの、像の位置や大きさについて適切な説明を選ぶ	凸レンズによってできる像を調べる実験の結果を分析して解釈し、規則性を指摘することができる	物理的領域	選択	▪	43.7%	▼	41.5%	◆
			無解答率とその比較		0.1%	0.6%	-0.5%	0.5%	-0.4%
7(2)	キウイフルーツがゼラチンや寒天を分解する働きを説明した記述として適切なものを選ぶ	実験の結果を分析して解釈し、キウイフルーツはゼラチンを分解することを指摘することができる	生物的領域	選択	○	76.4%	◆	76.0%	◆
			無解答率とその比較		0.4%	1.1%	-0.7%	1.0%	-0.6%
<b>★上記以外で、恵庭市の無回答率が10%以上になった設問【下位4問抜粋】</b>									
1(1)	濃度5%の塩化ナトリウム水溶液100gをつくるために必要な塩化ナトリウムと水の質量を求める	特定の質量パーセント濃度の水溶液の溶質と水のそれぞれの質量を求めることができる	化学的領域	短答	▪	45.0%	≡	44.6%	≡
			無解答率とその比較		21.0%	17.6%	+3.4%	19.4%	+1.6%
5(2)	電磁石を動かさず、スイッチを入れたり切ったりすると、検流計の針が振れる理由を、「磁界」という言葉を使って説明する	技術の仕組みを示す場面において、スイッチの入切りによる磁界の変化を説明することができる	物理的領域	記述	●	56.8%	≡	54.3%	◇
			無解答率とその比較		29.2%	30.7%	-1.5%	33.2%	-4.0%
7(3)	キウイフルーツの上に置いたゼリーの崩れ方に違いが見られたという新たな疑問から、適切な課題を記述する	見いだした問題を基に、適切な課題を設定することができる	生物的領域	記述	●	57.3%	≡	55.3%	◇
			無解答率とその比較		27.7%	27.8%	-0.1%	30.3%	-2.6%
8(3)	課題に対して適切な(課題に正対した)考察になるよう修正する	他者の考察を検討して改善し、課題に対して適切な(課題に正対した)考察を記述することができる	生物的領域	記述	▪	47.4%	≡	45.9%	◇
			無解答率とその比較		24.4%	25.5%	-1.1%	28.5%	-4.1%

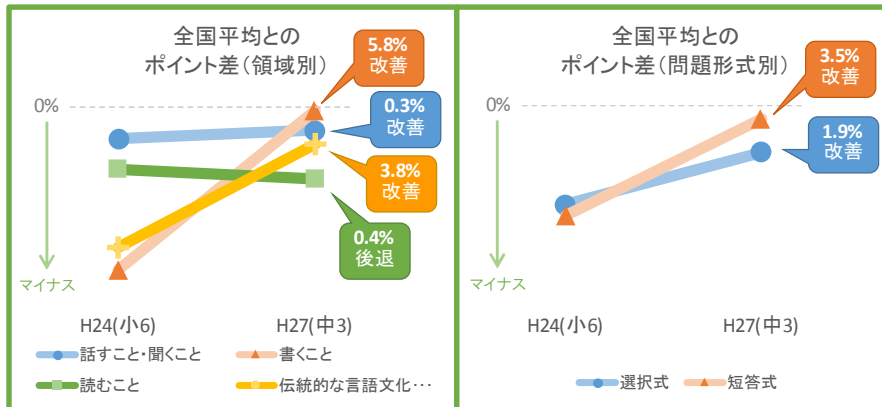
記号の意味 恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下  
比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≡同様 ◆やや下回る ▼下回る

⑪ 中学校 小学6年生時点（平成24年度）からの平均正答率（全国平均との差）の変化

★各科目大半の領域で改善傾向

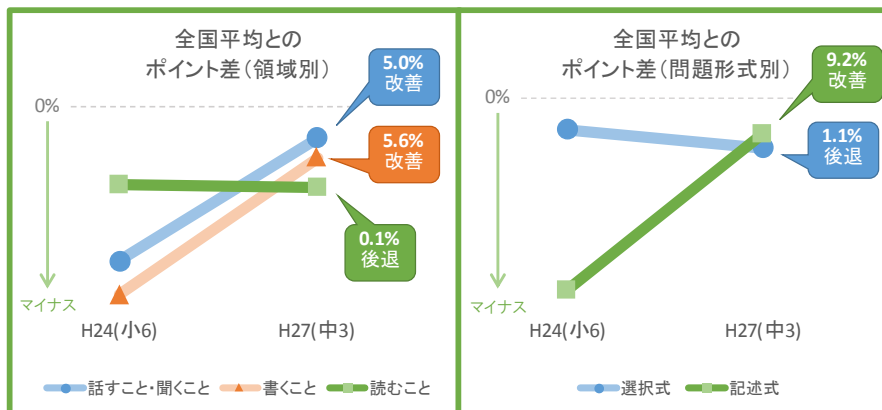
- 基本的には、小学6年生時点から中学3年生に向け、平均正答率の全国とのポイント差が改善（縮小）する傾向にあります。
- その中でも大きな改善としては、国語Aの「書くこと」（+5.8%）、国語Bの「話すこと・聞くこと」（+5.0%）、「書くこと」（+5.6%）及び「記述式問題」（+9.2%）、算数・数学Bの「選択式問題」（+4.6%）、理科の「地学的領域」（+4.0%）及び「短答式問題」（+8.4%）といったものが挙げられます。
- 逆に後退傾向となっているものは、国語Bの「選択式問題」（-1.1%）や、理科の「化学的領域」（-2.8%）、「記述式問題」（-1.8%）などです。こうした領域では、正答率が全国平均より低い、無解答率が高いといった状況であることが多く、生徒の苦手傾向の一つの表れと思われます。

国語 A （平成24年度小学校国語Aと平成27年度中学校国語Aの比較）



小学6年生時点でポイント差の大きかった、「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で改善しています。

国語 B （平成24年度小学校国語Bと平成27年度中学校国語Bの比較）

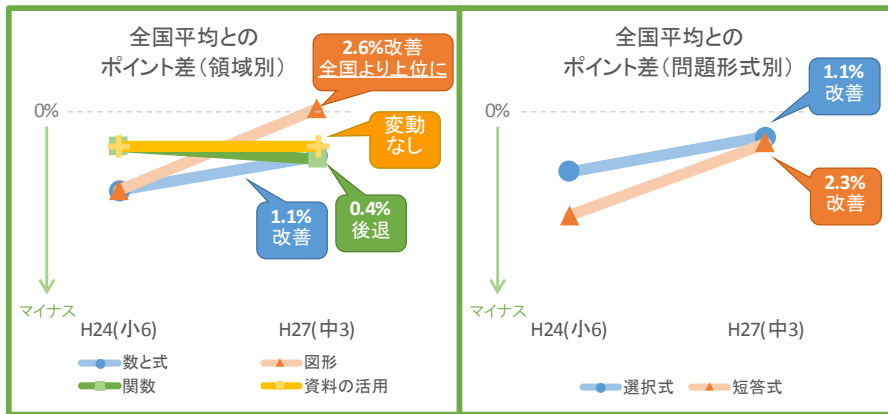


国語Aと同様、小学6年生時点で特にポイント差の大きかった領域や問題形式で大きく改善し、全国との差が相当縮まってきたことが分かります。

(次ページに続く)

## 数学A

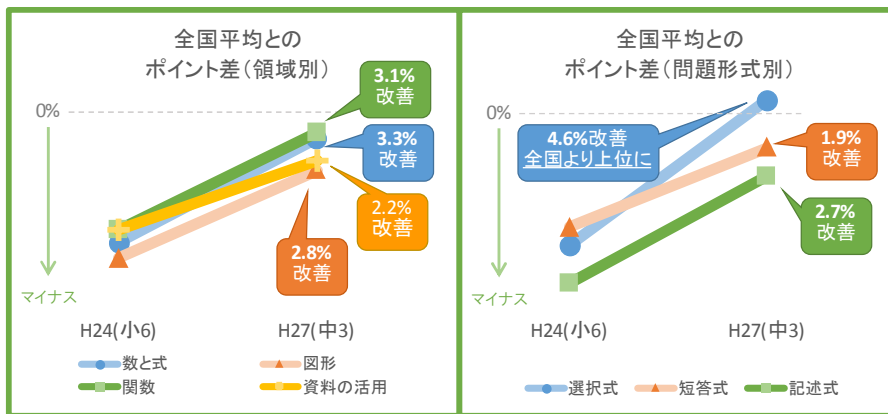
(平成24年度小学校算数Aと平成27年度中学校数学Aの比較)



横ばい又は緩やかな改善傾向にあります。「図形」の領域では全国平均とのポイント差が2.6%改善した結果、全国よりわずかに上位になりました。

## 数学B

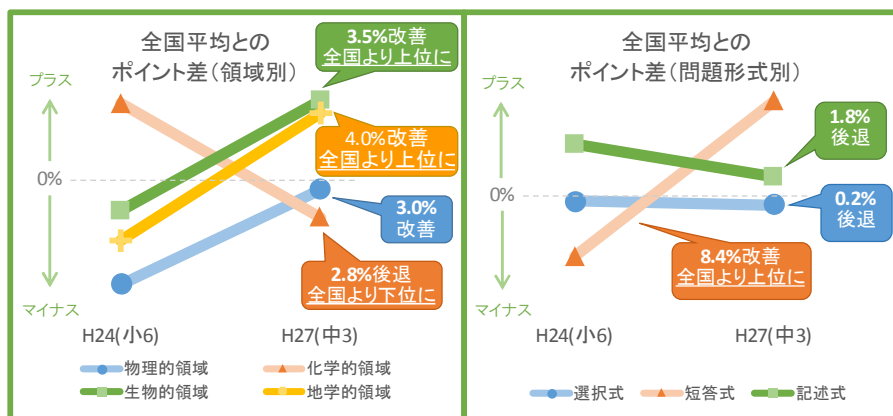
(平成24年度小学校算数Bと平成27年度中学校数学Bの比較)



全ての領域・問題形式で全国平均とのポイント差が改善し、全国平均正答率に近づいていることがわかります。選択式問題では全国平均より上位になりました。

## 理科

(平成24年度小学校理科と平成27年度中学校理科の比較)



小学6年生時点で全国平均より下位(ポイント差がマイナス)だった領域等のほとんどで改善がみられましたが、「化学的領域」はやや後退傾向でした。

小学校と中学校で領域の名称が異なる場合の対応関係について

### 【算数・数学】

※小学校の領域2つで中学校の領域1つに対応する場合は、小学校の2つの領域の平均値と、対応する中学校の領域の数値を比較している。

小学校の領域	中学校の領域
数と計算	数と式
数量関係	
量と測定	図形
図形	
数量関係	関数
数量関係	
数量関係	資料の活用

### 【理科】

小学校の領域	中学校の領域
エネルギー	物理的領域
物質	化学的領域
生命	生物的領域
地球	地学的領域

### 3 「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」調査結果

#### (1) 小学校児童質問紙調査結果の概要

小学校 児童質問紙  
学校質問紙

回答時間20分・質問数87問  
回答時間設定なし・質問数112問

質問紙調査の主な項目の回答結果データは、42ページ以降に掲載しています。

#### ア. 生活習慣

- 全国・全道同様、高い割合（約78%~96%）の子どもが規則正しい生活を送り、きちんと朝ごはんを食べています。
- テレビ等で長時間、番組や映像を視聴したり、ゲームをして遊ぶ児童の割合が全国より7%近く高いです。特に、より「受動的な活動」である「**テレビ等の視聴**」が長くなる傾向が、全道より強いのが特徴的です（全道比+4%）。インターネットなど通信のためのスマートフォン等の利用は比較的少なめですが、総じてこれらのメディアは、長時間続けてしまいがちです。夜更かしで生活リズムを崩したり、家でのだらんや学習の時間を損ねないように、道教委が示している「**全て合わせて2時間以内**」を目安に、家庭・学校の双方から「節度ある利用」を指導していくことが非常に重要です。

【参考】道教委リーフレット「時間の目安を決めて子どもの生活リズムを整える！」  
([http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/gks/jikan\\_meyasu.htm](http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/gks/jikan_meyasu.htm))  
※ 記載したウェブサイトのアドレスは、平成28年2月29日現在のものです。

#### イ. 自分やまわりへの意識

- 挑戦する気持ちを持って前向きに行動するのが得意でない児童が比較的多いようです（全国比で得意な児童が-8.2%）。試行錯誤することこそが成長のために大切であることを児童が実感できるよう、一つ一つの頑張りほめ、次の取り組みに向けて励ましていく、周囲の大人たちの根気強いサポートが欠かせません。
- 全道と同様の傾向ですが、地域の行事に参加したり、地域や社会の問題に関心を持つ児童の割合が全国と比べやや下回っています（-4.0%~-9.1%）。地域の様々な機会に児童を巻き込んでいく工夫を積み重ねることで、もっとまちへの親しみや愛着を深められる可能性があると考えられます。

#### ウ. 家庭学習

- 学校が一丸となって、進め方などを丁寧に指導し、家庭の協力も仰ぎながら取り組んできた結果、熱心に授業の復習に取り組んでいることが分かります。しかし、従来から引き続き、**家庭学習にかける時間自体が少ない傾向**が見られます（全国比で、平日一時間以上している児童が-11.3%）。学校から与えられた内容だけでなく、自ら新しいことや発展的なことを学ぼうという関心・意欲を盛りたてて、児童が意義のある学習時間を少しずつ積み上げていくことができるよう、継続的な後押しが必要です。

(次ページへ続く)



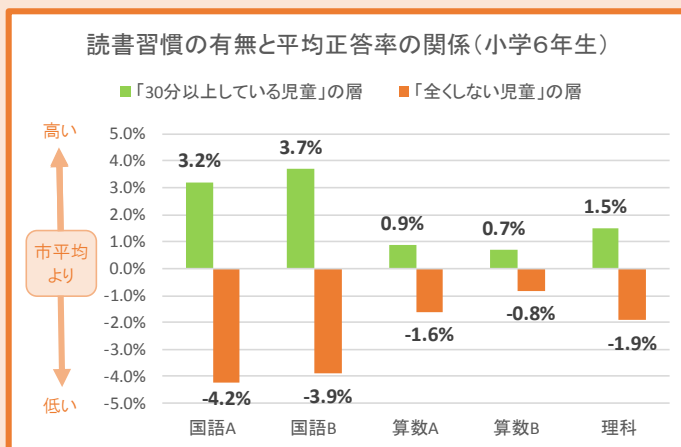
## エ. 学校での学習

- 全国・全道と同様、授業の「めあて・ねらい」や学習内容の振り返りをきちんと捉えている児童の割合が高いです（約74%～83%）。また、こうした内容をきちんとノートにまとめている児童の割合が全道より高いです（+7.1%）。
- 全国と比べ、「算数の勉強が好き」「算数の授業がよく分かる」児童が少なく（-7%程度）、**苦手意識を持っている**ことが分かります。市では習熟度別授業や、チームティーチングの実施により多くの児童が「算数分かる」という達成感を得られるよう取り組んでいるところです。
- 「理科の学習が将来社会で役に立つ」「理科や科学技術に関連した職業に就きたい」という児童も少ない傾向（全国比-4.5%～-6.6%）にあり、身近に思ったり、探求する分野として魅力を感じたりしづらいようです。

## オ. 読書

- 市内全ての小・中学校では、学校司書が配置され、一斉読書の時間を設けるなど、児童・生徒が本に親しみ、読書を習慣とする環境づくりを着実に進めています。
- 図書館等を利用する習慣は全国・全道より定着していますが（全国比+9.1%）、質問16（平日一日平均どのくらい読書するか）において「読書の習慣がない」と答えた児童が全国よりやや多く（+2.3%）、課せられた時間以外にもすすんで本を読みたくなるような意欲の育成が課題であると思われま

### ★読書習慣のあり・なしによる平均正答率の違い



結果データの「クロス集計（一定の基準別による集計）」から分析すると、恵庭市で平日に授業以外で読書を一日当たり「30分以上している」と答えた児童の層の平均正答率が、市全体の数値より国語で3%以上・他教科で1%前後**高い**のに対し、「全くしない」と答えた児童の層では、国語で4%近く・他教科で1%～2%**低**くなっています。

このことから、特に国語の結果と読書習慣のあり・なしに**相関関係**があることが見えてきました。



## (2) 中学校生徒質問紙調査結果の概要

中学校 生徒質問紙  
学校質問紙

回答時間20分・質問数87問  
回答時間設定なし・質問数110問

質問紙調査の主な項目の回答結果データは、[42ページ以降](#)に掲載しています。

### ア. 生活習慣

- ・全国・全道と比較し、**寝る時間が不規則になっている生徒が6%強多い**です。夜更かしをしないようにという家庭での「ひと声」や、不規則な生活のからだへの影響を話し合う機会が大切です。
- ・テレビ、ゲーム等を2時間以上利用する割合が全国より高いです。小学生と比べ、テレビ等の視聴（全国比+3.2%）よりも、**長時間ゲームをして遊ぶ割合が高くなる傾向**にあります（同+6.8%）。3割近い生徒がスマートフォン等の長時間利用も行っており、一日の多くの時間をこれらのメディアに費やしている状況が、就寝時間の不規則さや家庭学習時間の伸び悩み（後述）の一因と考えられます。時間の限度などルールを決め、メリハリをつけて使うよう指導することが重要です。

### イ. 自分やまわりへの意識

- ・小学生と比べ、「自分には良いところがある」と思っている生徒が**18%以上少なく、全国水準よりも11%以上下回っています**。生徒のいわゆる「自尊心」がうまく育てられていない面があると思われる。生徒の日頃の努力やよい行いを、家庭・学校がたくさん見出して拾いあげ、適切に評価する等の働きかけを行っていくことが課題です。
- ・家族とのかかわりが薄くなる傾向があります。また、小学生より更に地域や社会への関心を持つ生徒が少なく、全国比で7%~11%、全道比でも4%~5%低い水準となっています。多感な時期の生徒たちが地域に興味や魅力を感じられるよう、一層工夫を凝らすことが求められます。

### ウ. 家庭学習

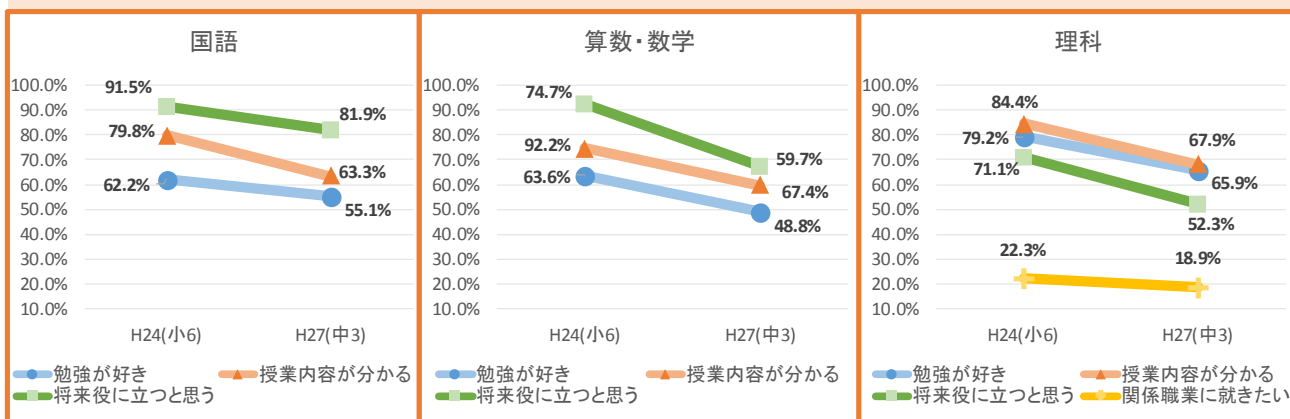
- ・小学生同様、1時間以上家庭学習する生徒が全国よりやや少なく（-7.4%~-7.8%）、また、授業の復習や宿題と対照的に、**予習に取り組む生徒の割合が全国・全道よりやや低い**です（-8.5%）。「自ら進んで」「少しでも長く」学習することが苦手な傾向が見られます。予習の習慣づけを促す一層の指導や、発展的な課題を示すなど生徒の興味をつかむ試みが必要と思われます。

### エ. 学校での学習

- ・小学生と異なり、授業の「めあて・ねらい」や学習内容の振り返りをきちんと捉えている生徒の割合が全国より低い傾向にあり（-9.3%~-13.1%）、学習内容の定着に課題があると思われます。
- ・**国語と数学において「勉強が好き」「授業がよく分かる」割合が全国を相当下回っており**（-5.4%~-11.9%）、達成感を得られていない生徒がいるとみられます。数学については、学習内容が「社会に出たときに役に立つ」と感じる割合もやや低い（-5.1%）ことから、暮らしや仕事のどのような場面で有意義に利用されているかを豊富に紹介する等、親近感を高めるような取り組みも重要です。

(次のページに続く)

## ★教科に対する意識の小学6年生時点からの変化



上のグラフは、肯定的な回答（質問に対し「当てはまる」「どちらかという当てはまる」）の割合の変化を示したものです。全体として割合が減少していますが、特に、「授業内容が分かる」「将来役に立つと思う（数学・理科）」の落ち込みが15%～25%程度と激しいです。学習内容が難しく複雑になる中学生に対しては、各教科の魅力伝えることを含め、意欲や達成感を高めるような学習・指導の充実が重要と考えられます。

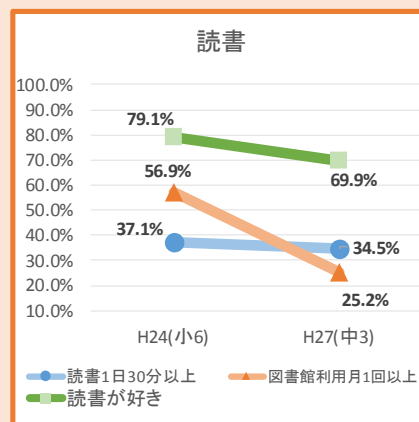
## オ. 読書

・図書館等の利用や読書の習慣は、全国・全道より定着の割合が若干高い（+3.9%～+5.6%）ですが、質問16（平日一日平均どのくらい読書するか）において「読書の習慣がない」と答えた生徒が全国よりやや多い（+3.6%）ことから、関心の低い生徒たちが読書を楽しむ「きっかけ」を、いかにアイデアを凝らしてつくるかが課題の一つと思われます。

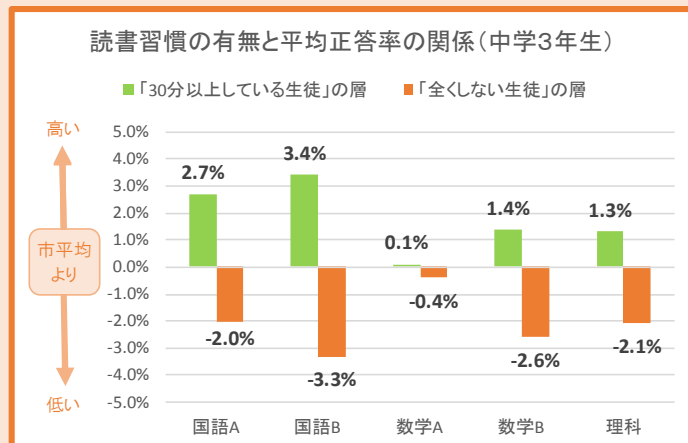
## ★読書習慣・意識の小学校6年生時点からの変化

肯定・積極的な回答率が低くなる傾向が見られますが、一日当たり30分以上の読書習慣があると答えた生徒の減少幅は2.6%程度と緩やかなことから、一度読書が日課になれば、定着していくことが期待されます。なお、図書館利用の大幅減は、部活動等による自由時間の減少によるところが大きいと思われます。

※「読書が好き」の数値は、この質問に「当てはまる」「どちらか」といえば当てはまる」と回答した児童・生徒の割合です。



## ★読書習慣のあり・なしによる平均正答率の違い



結果データの「クロス集計」から分析すると、恵庭市で授業以外に読書を一日当たり30分以上「している」と答えた生徒の層では、平均正答率が市全体より国語で3%前後・数学Aを除く他教科で1%以上高い一方、「全くしない」と答えた生徒の層では、国語で1%～2%・数学Aを除く他教科で2%以上低くなっています。このことから、小学生と同様、特に国語の結果と読書習慣のあり・なしに相関関係があると思われます。

(3) 児童・生徒質問紙及び学校質問紙調査の主な回答結果データ

①児童・生徒質問紙

質問 番号	質問事項	回答率に 含まれる 回答の範囲	学年	恵庭市 回答率	全国(公立)		全道(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
<b>ア. 生活習慣に関する質問</b>								
1	朝食を毎日食べていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	95.8%	95.6%	0.2%	94.1%	1.7%
			中3	93.6%	93.5%	0.1%	92.5%	1.1%
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	77.5%	79.5%	-2.0%	78.5%	-1.0%
			中3	68.6%	75.2%	-6.6%	73.6%	-5.0%
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	91.5%	91.0%	0.5%	89.2%	2.3%
			中3	91.5%	92.1%	-0.6%	91.8%	-0.3%
10	普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか(勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除く)	2時間以上している	小6	66.1%	59.2%	6.9%	62.1%	4.0%
			中3	58.9%	55.7%	3.2%	56.8%	2.1%
11	普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか	2時間以上している	小6	37.4%	30.2%	7.2%	37.5%	-0.1%
			中3	43.1%	36.3%	6.8%	41.4%	1.7%
12	普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)	2時間以上している	小6	8.6%	9.8%	-1.2%	12.9%	-4.3%
			中3	28.8%	31.3%	-2.5%	35.5%	-6.7%
<b>イ. 自分やまわりへの意識に関する質問</b>								
5	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	68.2%	76.4%	-8.2%	73.9%	-5.7%
			中3	61.3%	68.8%	-7.5%	68.0%	-6.7%
6	自分には、よいところがあると思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	75.6%	76.4%	-0.8%	73.1%	2.5%
			中3	57.0%	68.1%	-11.1%	66.4%	-9.4%
18	家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	80.4%	79.5%	0.9%	78.6%	1.8%
			中3	69.2%	73.7%	-4.5%	73.9%	-4.7%
19	家の人(兄弟姉妹を除く)は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか	「よく来る」「時々来る」	小6	96.2%	96.6%	-0.4%	95.8%	0.4%
			中3	70.8%	83.4%	-12.6%	73.8%	-3.0%
27	今住んでいる地域の行事に参加していますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	57.8%	66.9%	-9.1%	59.0%	-1.2%
			中3	33.4%	44.8%	-11.4%	37.4%	-4.0%
28	地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	59.9%	63.9%	-4.0%	60.6%	-0.7%
			中3	48.1%	55.9%	-7.8%	52.9%	-4.8%
<b>ウ. 家庭学習に関する質問</b>								
13	学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)	1時間以上している	小6	51.4%	62.7%	-11.3%	54.6%	-3.2%
			中3	61.6%	69.0%	-7.4%	63.0%	-1.4%
14	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)	1時間以上している	小6	53.1%	56.7%	-3.6%	54.8%	-1.7%
			中3	60.9%	68.7%	-7.8%	66.5%	-5.6%
15	学習塾(家庭教師を含む)で勉強をしていますか	している	小6	32.3%	47.0%	-14.7%	39.1%	-6.8%
			中3	55.2%	60.9%	-5.7%	51.3%	3.9%
20	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	65.9%	62.8%	3.1%	64.2%	1.7%
			中3	43.3%	48.8%	-5.5%	49.0%	-5.7%
21	家で、学校の宿題をしていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	93.8%	96.8%	-3.0%	95.0%	-1.2%
			中3	87.8%	89.3%	-1.5%	90.3%	-2.5%
22	家で、学校の授業の予習をしていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	46.8%	43.4%	3.4%	47.6%	-0.8%
			中3	26.8%	35.3%	-8.5%	34.9%	-8.1%
23	家で、学校の授業の復習をしていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	72.7%	54.5%	18.2%	64.1%	8.6%
			中3	59.6%	52.0%	7.6%	57.5%	2.1%

(次ページへ続く)

①児童・生徒質問紙（続き）

質問 番号	質問事項	回答率に 含まれる 回答の範囲	学年	恵庭市 回答率	全国(公立)		全道(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
<b>エ. 学校での学習に関する質問</b>								
41	5年生までに／1, 2年生のときに受けた授業のはじめに, 目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	<b>82.6%</b>	<b>86.3%</b>	-3.7%	<b>81.1%</b>	1.5%
			中3	<b>70.4%</b>	<b>79.7%</b>	-9.3%	<b>70.4%</b>	0.0%
42	5年生までに／1, 2年生のときに受けた授業の最後に, 学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	<b>74.3%</b>	<b>75.3%</b>	-1.0%	<b>71.2%</b>	3.1%
			中3	<b>46.2%</b>	<b>59.3%</b>	-13.1%	<b>50.9%</b>	-4.7%
43	5年生までに／1, 2年生のときに受けた授業で扱うノートには, 学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	<b>87.8%</b>	<b>87.1%</b>	0.7%	<b>80.7%</b>	<b>7.1%</b>
			中3	<b>64.2%</b>	<b>73.7%</b>	-9.5%	<b>62.0%</b>	2.2%
48	国語の勉強は好きですか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	<b>60.0%</b>	<b>61.1%</b>	-1.1%	<b>61.8%</b>	-1.8%
			中3	<b>55.1%</b>	<b>60.5%</b>	-5.4%	<b>64.2%</b>	-9.1%
50	国語の授業の内容はよく分かりますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	<b>78.9%</b>	<b>82.0%</b>	-3.1%	<b>81.2%</b>	-2.3%
			中3	<b>63.3%</b>	<b>74.3%</b>	-11.0%	<b>76.4%</b>	-13.1%
52	国語の授業で学習したことは, 将来, 社会に出たときに役に立つと思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	<b>89.6%</b>	<b>88.6%</b>	1.0%	<b>88.2%</b>	1.4%
			中3	<b>81.9%</b>	<b>84.2%</b>	-2.3%	<b>83.8%</b>	-1.9%
55	国語の授業で自分の考えを書きとき, 考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	<b>69.3%</b>	<b>72.7%</b>	-3.4%	<b>71.2%</b>	-1.9%
			中3	<b>59.2%</b>	<b>65.7%</b>	-6.5%	<b>66.2%</b>	-7.0%
56	国語の授業で文章を読むとき, 段落や話のまとめごとに内容を理解しながら読んでいますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	<b>73.6%</b>	<b>77.2%</b>	-3.6%	<b>76.5%</b>	-2.9%
			中3	<b>68.6%</b>	<b>70.6%</b>	-2.0%	<b>71.8%</b>	-3.2%
57	今回の国語の問題について, 解答を文章で書く問題がありましたが, どのように解答しましたか／最後まで解答を書こうと努力しましたか	全ての問題で最後まで解答を書こうと努力した	小6	<b>71.5%</b>	<b>77.7%</b>	-6.2%	<b>74.4%</b>	-2.9%
			中3	<b>72.3%</b>	<b>76.4%</b>	-4.1%	<b>74.2%</b>	-1.9%
58	算数／数学の勉強は好きですか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	<b>59.8%</b>	<b>66.6%</b>	-6.8%	<b>64.5%</b>	-4.7%
			中3	<b>48.8%</b>	<b>56.0%</b>	-7.2%	<b>53.8%</b>	-5.0%
60	算数／数学の授業の内容はよく分かりますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	<b>74.0%</b>	<b>81.0%</b>	-7.0%	<b>77.7%</b>	-3.7%
			中3	<b>59.7%</b>	<b>71.6%</b>	-11.9%	<b>70.0%</b>	-10.3%
62	算数／数学の問題の解き方が分からないときは, 諦めずにいろいろな方法を考えますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	<b>75.5%</b>	<b>79.6%</b>	-4.1%	<b>77.4%</b>	-1.9%
			中3	<b>63.9%</b>	<b>69.8%</b>	-5.9%	<b>68.1%</b>	-4.2%
63	算数／数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	<b>61.5%</b>	<b>67.7%</b>	-6.2%	<b>63.3%</b>	-1.8%
			中3	<b>30.2%</b>	<b>40.9%</b>	-10.7%	<b>37.5%</b>	-7.3%
64	算数／数学の授業で学習したことは, 将来, 社会に出たときに役に立つと思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	<b>90.0%</b>	<b>90.3%</b>	-0.3%	<b>88.9%</b>	1.1%
			中3	<b>67.4%</b>	<b>72.5%</b>	-5.1%	<b>70.2%</b>	-2.8%
68	今回の算数／数学の問題について, 言葉や数・式を使って, わけや求め方など書く問題がありましたが, どのように解答しましたか／解答を言葉や数, 式を使って説明する問題がありましたが, 最後まで解答を書こうと努力しましたか	全ての問題で最後まで解答を書こうと努力した	小6	<b>64.2%</b>	<b>73.3%</b>	-9.1%	<b>69.5%</b>	-5.3%
			中3	<b>42.0%</b>	<b>51.3%</b>	-9.3%	<b>45.3%</b>	-3.3%
69	理科の勉強は好きですか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	<b>82.8%</b>	<b>83.5%</b>	-0.7%	<b>85.6%</b>	-2.8%
			中3	<b>65.9%</b>	<b>61.9%</b>	4.0%	<b>66.4%</b>	-0.5%
71	理科の授業の内容はよく分かりますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	<b>90.0%</b>	<b>87.9%</b>	2.1%	<b>88.9%</b>	1.1%
			中3	<b>65.7%</b>	<b>66.8%</b>	-1.1%	<b>69.9%</b>	-4.2%
73	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	<b>64.6%</b>	<b>69.3%</b>	-4.7%	<b>66.6%</b>	-2.0%
			中3	<b>39.9%</b>	<b>46.9%</b>	-7.0%	<b>46.2%</b>	-6.3%
74	理科の授業で学習したことは, 将来, 社会に出たときに役に立つと思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	<b>70.0%</b>	<b>74.5%</b>	-4.5%	<b>71.8%</b>	-1.8%
			中3	<b>52.3%</b>	<b>54.3%</b>	-2.0%	<b>53.3%</b>	-1.0%
75	将来, 理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	<b>22.2%</b>	<b>28.8%</b>	-6.6%	<b>27.6%</b>	-5.4%
			中3	<b>18.9%</b>	<b>22.9%</b>	-4.0%	<b>22.1%</b>	-3.2%
82	今回の理科の問題について, 解答を文章などで書く問題がありましたが, それらの問題について, どのように解答しましたか／最後まで解答を書こうと努力しましたか	全ての問題で最後まで解答を書こうと努力した	小6	<b>73.3%</b>	<b>76.1%</b>	-2.8%	<b>74.6%</b>	-1.3%
			中3	<b>49.2%</b>	<b>51.8%</b>	-2.6%	<b>49.5%</b>	-0.3%

(次ページへ続く)

①児童・生徒質問紙（続き）

質問番号	質問事項	回答率に含まれる回答の範囲	学年	恵庭市回答率	全国(公立)		全道(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
<b>オ. 読書に関する質問</b>								
16	学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)	1日当たり30分以上している	小6	34.6%	37.7%	-3.1%	36.5%	-1.9%
			中3	34.5%	30.6%	3.9%	33.1%	1.4%
		全くしない	小6	22.2%	19.9%	2.3%	23.3%	-1.1%
			中3	38.6%	35.0%	3.6%	33.5%	5.1%
17	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか	月1回以上行く	小6	49.8%	40.7%	9.1%	36.0%	13.8%
			中3	25.2%	19.6%	5.6%	17.4%	7.8%
51	読書は好きですか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	73.6%	72.8%	0.8%	72.0%	1.6%
			中3	69.9%	67.9%	2.0%	71.7%	-1.8%

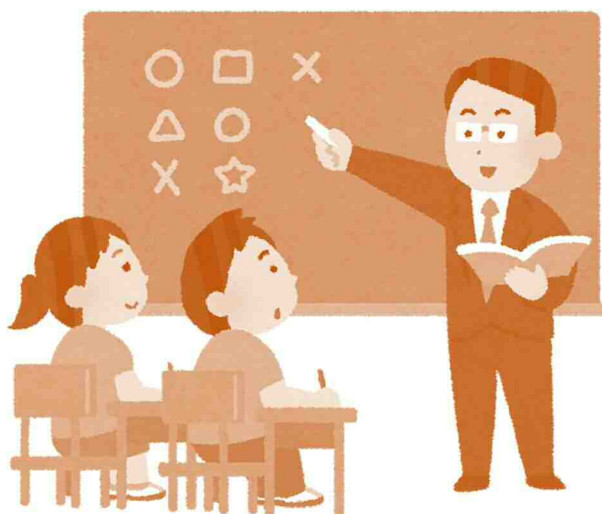
②学校質問紙

質問番号	質問事項	回答率に含まれる回答の範囲	学校	恵庭市回答率	全国(公立)		全道(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
<b>A. 児童・生徒の自分やまわりへの意識に関する質問</b>								
43	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童／生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ、児童／生徒に伝えるなど積極的に評価しましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	96.7%	3.3%	97.1%	2.9%
			中	100.0%	95.8%	4.2%	97.4%	2.6%
45	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度に、教科や総合的な学習の時間、あるいは朝や帰りの会などにおいて、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	87.5%	75.6%	11.9%	82.5%	5.0%
			中	80.0%	68.4%	11.6%	82.6%	-2.6%
<b>B. 児童・生徒の家庭学習に関する質問</b>								
89	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	99.6%	0.4%	98.2%	1.8%
			中	100.0%	91.1%	8.9%	92.2%	7.8%
91	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、算数／数学の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	99.6%	0.4%	98.8%	1.2%
			中	100.0%	93.3%	6.7%	95.4%	4.6%
93	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、保護者に対して児童／生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	96.5%	3.5%	98.1%	1.9%
			中	100.0%	83.9%	16.1%	94.3%	5.7%
96	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、児童／生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	89.8%	10.2%	94.9%	5.1%
			中	80.0%	85.7%	-5.7%	93.2%	-13.2%
97	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、理科の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	62.5%	40.0%	22.5%	42.3%	20.2%
			中	80.0%	78.2%	1.8%	80.0%	0.0%
<b>C. 児童・生徒の学校での学習に関する質問</b>								
26	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度に、放課後を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか	月に数回以上行った	小	62.5%	47.2%	15.3%	61.6%	0.9%
			中	80.0%	48.3%	31.7%	66.8%	13.2%
28	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度に、長期休業日を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか(実施した日数の累計)	年に1回以上行った	小	75.0%	62.8%	12.2%	77.4%	-2.4%
			中	80.0%	79.8%	0.2%	88.5%	-8.5%
29	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	98.1%	1.9%	98.1%	1.9%
			中	100.0%	95.7%	4.3%	94.2%	5.8%
30	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	87.5%	93.9%	-6.4%	94.8%	-7.3%
			中	100.0%	90.9%	9.1%	92.6%	7.4%
34	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、授業で扱うノートに、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書くように指導しましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	94.1%	5.9%	95.6%	4.4%
			中	100.0%	81.9%	18.1%	87.4%	12.6%

(次ページへ続く)

②学校質問紙（続き）

質問 番号	質問事項	回答率に 含まれる 回答の範囲	学校	恵庭市 回答率	全国(公立)		全道(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
<b>C. 児童・生徒の学校での学習に関する質問（続き）</b>								
55	調査対象学年の児童／生徒に対して、算数／数学の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか	年間授業のおおよそ1/4以上行った	小	87.5%	44.2%	43.3%	48.2%	39.3%
			中	60.0%	33.6%	26.4%	46.2%	13.8%
57	調査対象学年の児童／生徒に対して、算数／数学の授業において、前年度に、チームティーチングによる指導を行いましたか	年間授業のおおよそ1/4以上行った	小	62.5%	45.5%	17.0%	58.5%	4.0%
			中	80.0%	44.7%	35.3%	57.5%	22.5%
62	調査対象学年の児童／生徒に対する国語の指導として、前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	91.9%	8.1%	92.4%	7.6%
			中	100.0%	94.5%	5.5%	96.2%	3.8%
63	調査対象学年の児童／生徒に対する国語の指導として、前年度までに、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	87.5%	84.6%	2.9%	88.8%	-1.3%
			中	100.0%	86.7%	13.3%	92.4%	7.6%
66	調査対象学年の児童／生徒に対する算数／数学の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	50.0%	61.6%	-11.6%	70.3%	-20.3%
			中	80.0%	65.4%	14.6%	76.2%	3.8%
67	調査対象学年の児童／生徒に対する算数／数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	87.5%	69.3%	18.2%	79.3%	8.2%
			中	40.0%	63.4%	-23.4%	73.4%	-33.4%
72 71	調査対象学年の児童／生徒に対する理科の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	87.5%	80.0%	7.5%	84.4%	3.1%
			中	100.0%	88.1%	11.9%	91.7%	8.3%
<b>D. 児童・生徒の読書に関する質問</b>								
15	教員以外の職員で学校図書館に関する業務を担当する職員（「学校司書」など）が置かれていますか（ボランティアを除く）	常勤・非常勤問わず置かれています	小	100.0%	57.7%	42.3%	17.4%	82.6%
			中	100.0%	55.8%	44.2%	13.9%	86.1%
24	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度に、「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか	週に複数回以上、定期的に行った	小	100.0%	61.1%	38.9%	69.4%	30.6%
			中	100.0%	80.2%	19.8%	83.5%	16.5%
25	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度に、学校図書館を活用した授業を計画的に行いましたか	学期に数回程度行った	小	37.5%	47.6%	-10.1%	30.0%	7.5%
			中	40.0%	44.9%	-4.9%	47.1%	-7.1%



## 4 総評

- ① 学力調査の結果から、恵庭市の小学6年生の平均正答率は、全国平均に比べて、国語 A・B、算数 A・B がやや下回る、理科が同様の結果となりました。恵庭市の中学3年生の平均正答率は、全国平均に比べて、国語 A、数学 A・B、理科が同様、国語 B がやや下回る結果となりました。
- ② また、全国の下位約25%の小学6年生・中学3年生と同じ正答数の範囲に含まれる恵庭市の小学6年生・中学3年生の割合は、前回調査と比べて、次のようになりました。

	小学6年生					中学3年生				
	国語A	国語B	算数A	算数B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
前回 国・算数：H26 理：H24	24.0%	23.6%	29.2%	32.3%	23.0%	26.6%	23.4%	27.6%	30.3%	22.1%
H27	<b>31.6%</b>	<b>30.7%</b>	<b>25.4%</b>	<b>28.5%</b>	<b>27.0%</b>	<b>25.7%</b>	<b>25.6%</b>	<b>23.5%</b>	<b>28.8%</b>	<b>20.3%</b>

※割合が小さくなるのが学力の底上げの目安になります。

- ③ 上記の層の基礎学力の向上を図るために、各校では、算数・数学の授業に TT（チームティーチング）や習熟度別学習などの少人数指導を取り入れ、放課後学習会や長期休業中の学習会を実施するなど、きめ細かい指導に努めてきました。その結果、小・中学校ともに、算数・数学において、全国の下位約25%に含まれる層の割合が減少しています。
- ④ 恵庭市の小学6年生・中学3年生の生活習慣については、テレビやゲームなどに費やす時間が長い傾向にあり、その分、中学生の寝る時間が不規則な傾向や、普段（月～金曜日）や休みの日（土日、祝祭日）の家庭学習時間が短い傾向がみられます。
- ⑤ 今後も、学校、家庭、地域が連携して、恵庭市の児童・生徒の「学力向上に向けた取り組み」を積み重ねていくことが必要です。
- ⑥ 恵庭市 PTA 連合会では、今年度より、毎月第3日曜日を「市 P 連の日」と定めて、「ノーデジタル・メディア・チャレンジ」に取り組んでいます。日時を限定して、「テレビを消す」「携帯電話、スマートフォン、ゲーム機を使わない」「インターネットの利用、メールのやりとりをしない」などのルールを、家族みんなで決めて実行しようという呼びかけを行っています。道教委が示している「（デジタルメディアを）全て合わせて2時間以内」を目安に、「節度ある利用」を指導していくことが大切です。
- ⑦ 市教委では、「家庭学習の手引き」を配布しており、家庭学習の時間は、「学年×10分＋10分（中学生は7年生・8年生・9年生と数える）」としています。小学校1年生であれば1日20分、中学校3年生は1日100分（1時間40分）の家庭学習の時間を確保できるよう、各校から示されている「家庭学習の手引き」も参考にして、各家庭や PTA の協力もいただきながら、生活習慣・学習習慣づくりに努めていきます。